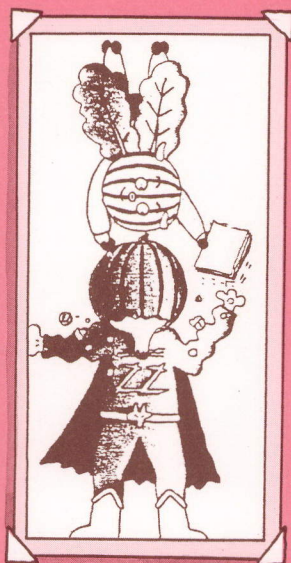
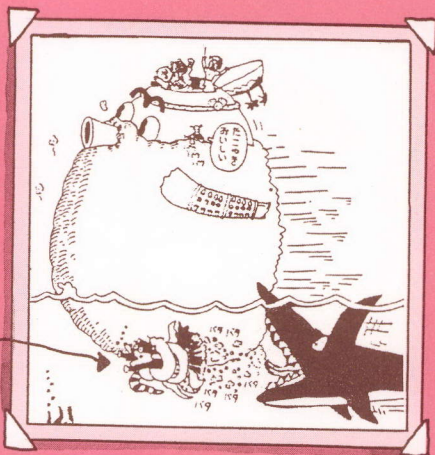
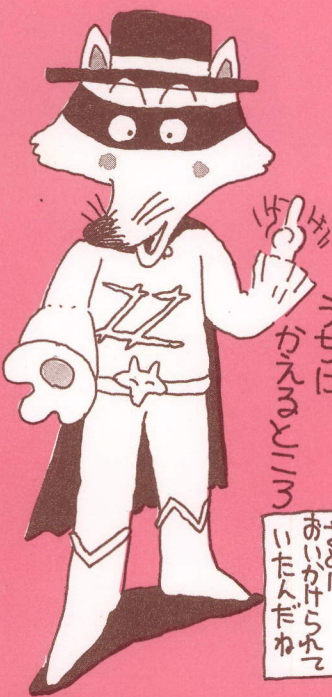
ポプラ社の小さな童話 91
《ほうれんそうマンシリーズ》

じどうしゃレース

☆ゾロリが じどうしゃレースで ゴールに はいる ところ。
（だけど、このあとで ぼくが きせきの ぎゃくてん ゆうしょう するんだよ）

ようかいじま

☆ゾロリに すいかを ぶつけて やっつけた ところ。

だめだめ こんなしゃしん。
オレさまの アルバム
みてくれよな。
さいごの ページに
あるからな。

ようかいがっこう

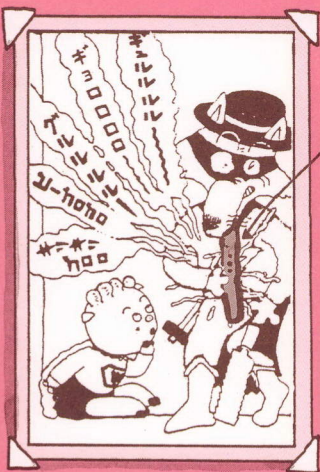
☆タコヤキぶねで ぼくたちの うちに かえる ところ

かいけつゾロリの なつかしの アルバム

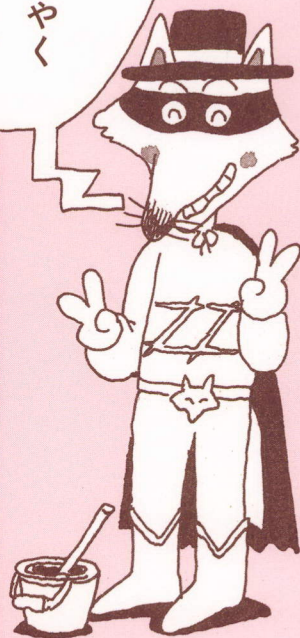
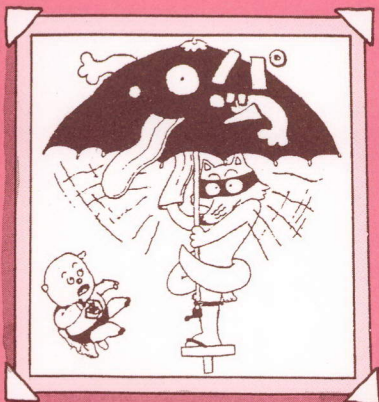
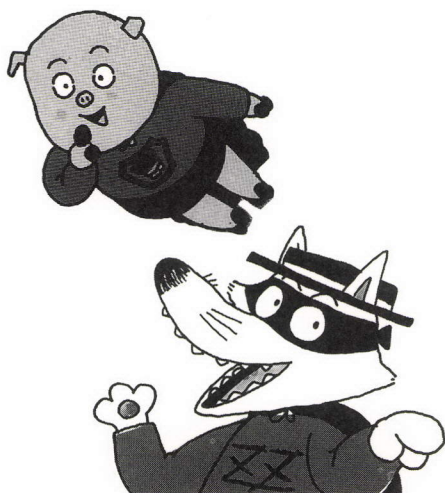
オレさまも ずいぶん かつやく したもんだな。

へんしんほうれんそうマン

☆とりの たまごを あたためて かえして あげる ゾロリさん それを ぬすもうと している ほうれんそうマン

よいこの1年生

☆ゾロリさんの えんそうする ふえに ききほれる ほうれんそうマン

おばけやしき

☆わたしの はつめいした メカに おどろいて かんしんしている ほうれんそうマン

- へんし〜んほうれんそうマン
- ほうれんそうマンよいこの1年生
- ほうれんそうマンのおばけやしき
- ほうれんそうマンのじどうしゃレース
- ほうれんそうマンのようかいじま
- ほうれんそうマンのようかいがっこう
- ほうれんそうマンのゆうれいじょう
- かいけつゾロリのドラゴンたいじ
- かいけつゾロリのきょうふのやかた
- かいけつゾロリのまほうつかいのでし
- かいけつゾロリの大かいぞく
- かいけつゾロリのゆうれいせん
- かいけつゾロリのチョコレートじょう
- かいけつゾロリの大きょうりゅう
- かいけつゾロリのきょうふのゆうえんち
- かいけつゾロリのママだ〜いすき
- かいけつゾロリの大かいじゅう
- かいけつゾロリのなぞのうちゅうじん
- かいけつゾロリのきょうふのプレゼント
- かいけつゾロリのなぞなぞ大さくせん
- かいけつゾロリのきょうふのサッカー
- かいけつゾロリつかまる!!
- かいけつゾロリとなぞのひこうき
- かいけつゾロリのおばけ大さくせん
- かいけつゾロリのにんじゃ大さくせん
- かいけつゾロリけっこんする!?
- かいけつゾロリ大けっとう!ゾロリじょう
- かいけつゾロリのきょうふのカーレース
- かいけつゾロリのきょうふの大ジャンプ
- かいけつゾロリの大金もち
- かいけつゾロリのテレビゲームききいっぱつ
- かいけつゾロリのきょうふの宝さがし
- かいけつゾロリちきゅうさいごの日

ポプラ社の小さな童話㉛

ほうれんそうマンのゆうれいじょう

一九八七年 六月 第1刷
二〇〇三年 四月 第40刷

作家 みづしま志穂
画家 原 ゆたか
発行者 坂井宏先
編集 井澤みよ子
発行所 株式会社 ポプラ社
東京都新宿区須賀町五 〒一六〇-八五六五
TEL 〇三―三三五七―二二一六(編集)
〇三―三三五七―二二一三(営業)
〇三―三三五七―二二一一(受注センター)
FAX 〇三―三三五九―二三五九(ご注文)
振替 〇〇一四〇―三―一四九二七一
印刷 瞬報社写真印刷株式会社
製本 株式会社難波製本

913 みづしま志穂
ほうれんそうマンのゆうれいじょう
ポプラ社 2003
86p 22cm
ポプラ社の小さな童話㉛

ISBN4-591-02507-1

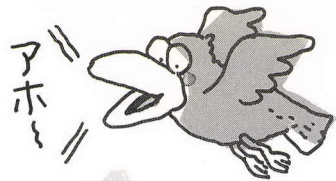
●作家紹介

みづしま志穂（みづしましほ）

一九五二年、鹿児島県に生まれる。「つよいぞポイポイきみはヒーロー」で第七回毎日童話新人賞「好きだった風　風だったきみ」で第三十二回毎日児童小説賞・日本児童文学者協会新人賞を受賞する。作品に「ほうれんそうマン」シリーズなどがある。

●画家紹介

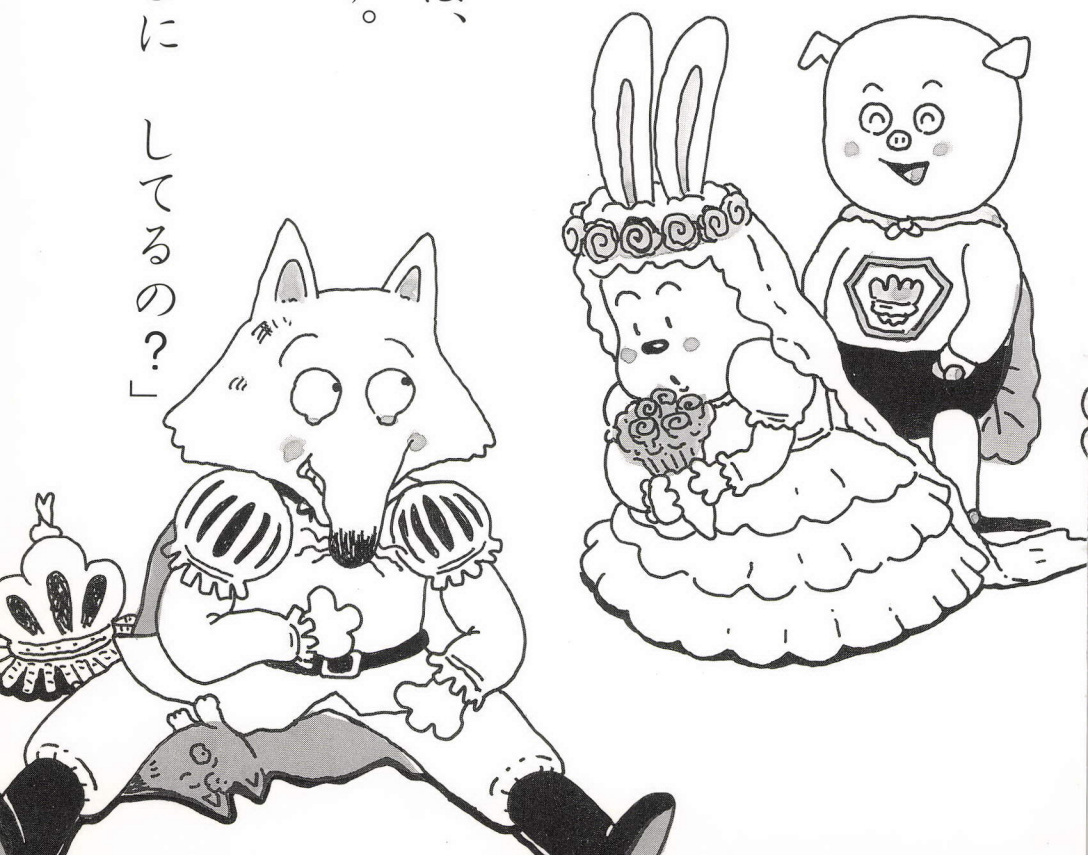
原ゆたか（はらゆたか）

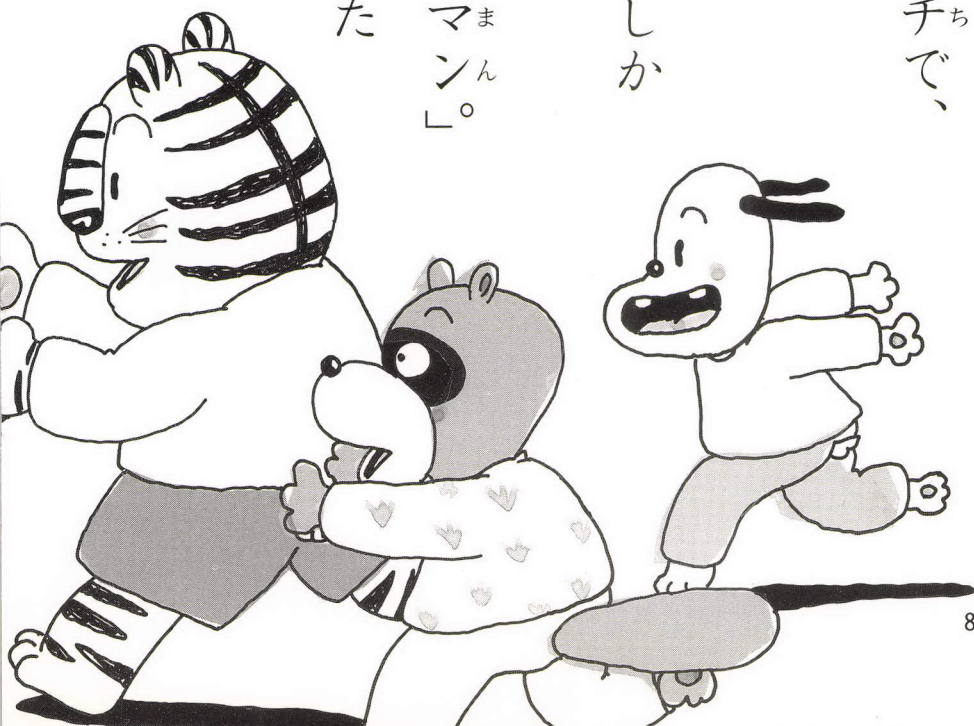
一九五三年、熊本県に生まれる。七四年KFSコンテスト・講談社児童図書部門賞受賞。主な作品に、「ちいさなもり」「マータンはまさおくん」「てぶくろロケットの宇宙探険」「たからのげた」「ぷうのおつかい」「ぼくのもパパみたいになるのかな」「ほうれんそうマン」シリーズなどがある。

アホ～
だれか、ひきとめてくれないかな……
かえってこないといいなぁ～
へいわになるぞ
このいしにつまずいてころばないかな～

オレさまは
これから　いじめの
しゅぎょうと　およめさん
さがしの　たびに　でるぜ。
どこかで　みかけたら
声を　かけてくれよ。
ママー　りっぱな
おとなに　なって
かえってくるぜ、あばよ。
ゆっくり
ねむれるように
なるね
うた、へたくそ
だったものね
ゾロリのママのかくれキャラクター
わたし、ママの　ゆうれいです。
あたらしい　ゾロリじょうで
ゾロリちゃんが
でてくるページには
わたし、こっそり
かくれて　みまもって
いたのよ。きがつかなかった
ひとは、さがして　みてね。

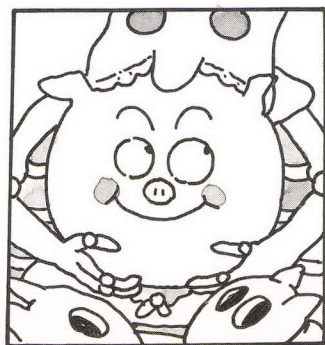
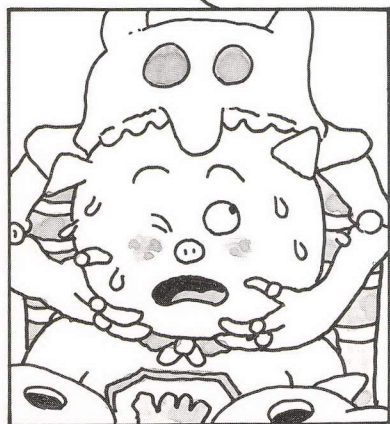
これは、そののときの　きねんしゃしんです。

ゾロリは、
「わーん、すみれちゃんと　けっこん
できなきゃ、この　おしろを
おいだされるよー、ママー。」
だだっこみたいに、
なきだしました。
すみれちゃんは　それを　みて
ひとこと　いいました。
「ゾロリさんって、子どもね。」

「すみれちゃん、
だいじょうぶ!!」
みんなの 大きな
声に おどろいて、
さいみんじゅつの
とけた すみれちゃんは、
きょとんと するばかり。
「あら ゾロリさん。
こんな ところで、 なに してるの?」

ほうれんそうマンの　パンチで、
ロボットは　バラバラ。
これでは　ゾロリも、
けっこんしきを　あきらめるしか
ありません。
「やったねー、ほうれんそうマン。」
もとの　すがたに　もどった
シマオや　ポンチ、そして
イヌジが　かけよります。

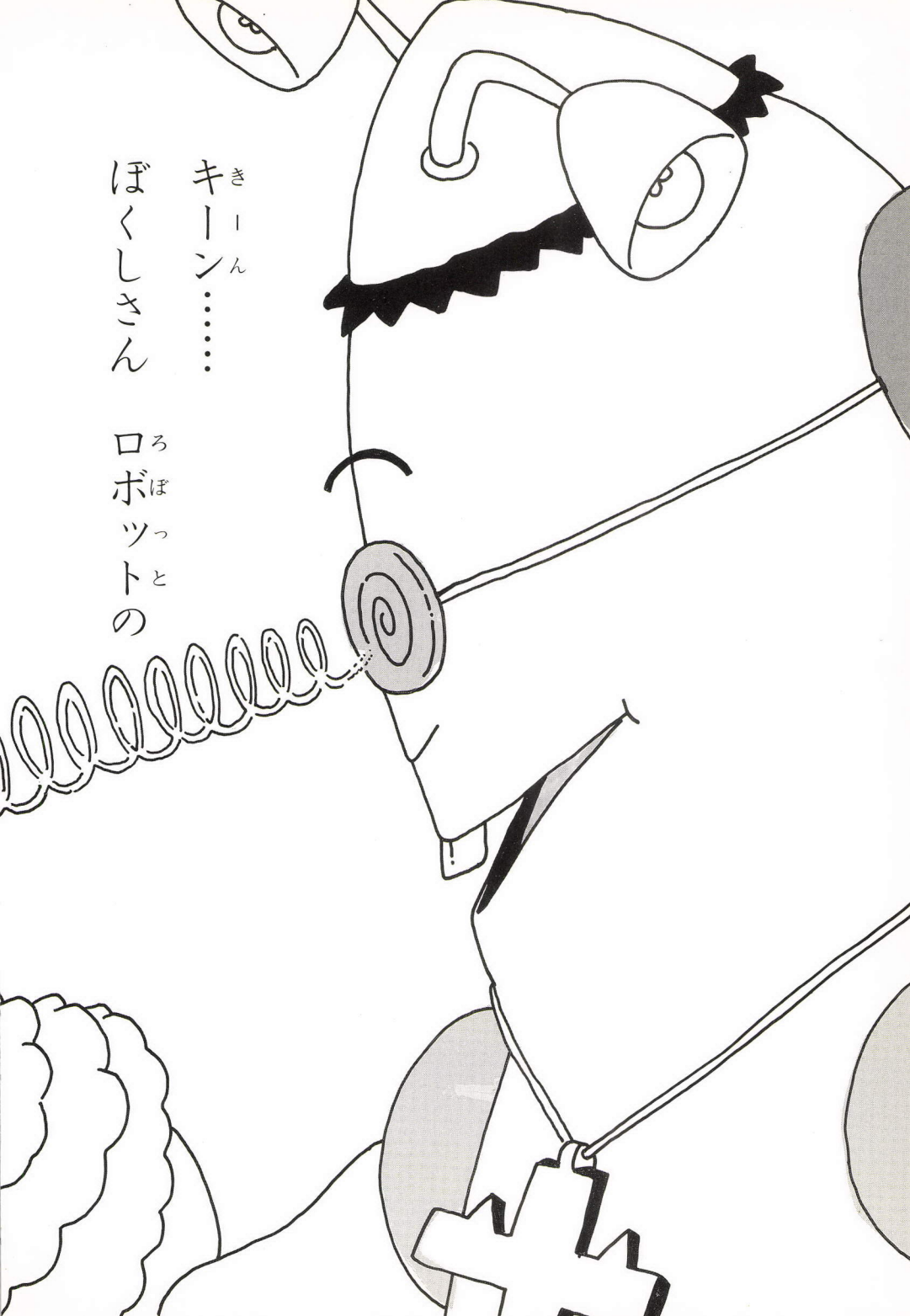
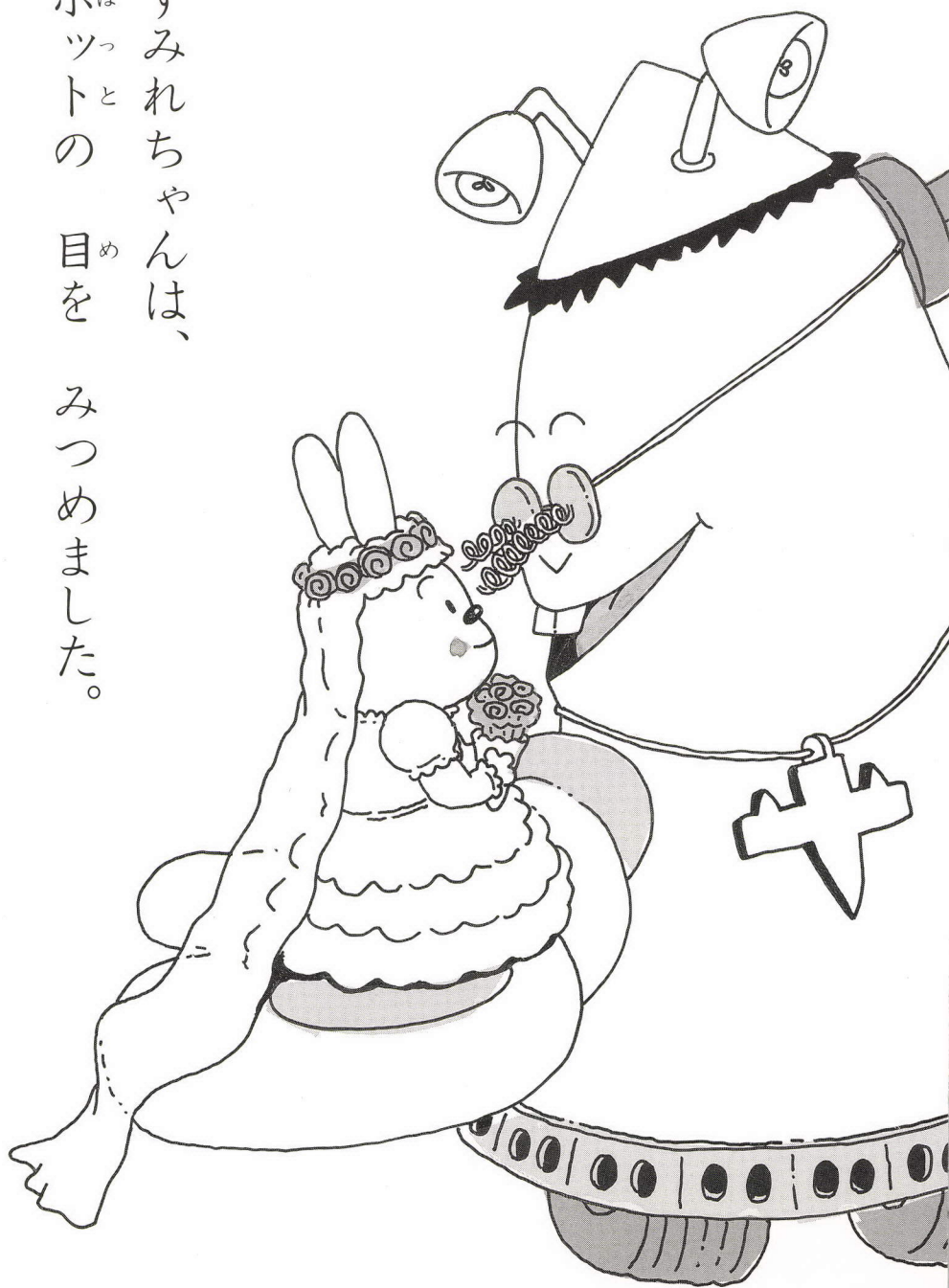
わあー、ゆ、ゆびわがーー！

すみれちゃんの、せかいで
いちばん　すきだと　いう
ことばを　きいた
ほうれんそうマン。
ゆうきが　こんこんと
わいてきて、ちからは　ひゃくばい。
ゾロリ家の　ゆうれい　いすなんか、
「エーイ！」
と、ひといきで
こわしてしまいました。

えーい、こうなりゃ
ゆびわの　こうかんさえ
すめば、すみれちゃんは
ぼくの　およめさんだ。

すみれちゃんは、さいみんじゅつに
かかってまでも、ほうれんそうマンが
だいすきという　きもちを、
うしなわなかったのです。
すばらしいですね。

すみれちゃん、ゾロリさんっていうんだよ。
ドキドキ
ワクワク
はい。わたしがいちばん　せかいで　すきなのは、ゾ、ゾ、ゾロリ……

さあ、あなたが
せかいで　いちばん
すきな　ひとの　なまえを
いって、ゆびわの
こうかんを　すれば、
あなたは　この　おしろの
おひめさまです。

目から でた、あやしい
こうせんが、すみれちゃんの
目のなかに すいこまれて
いきます。

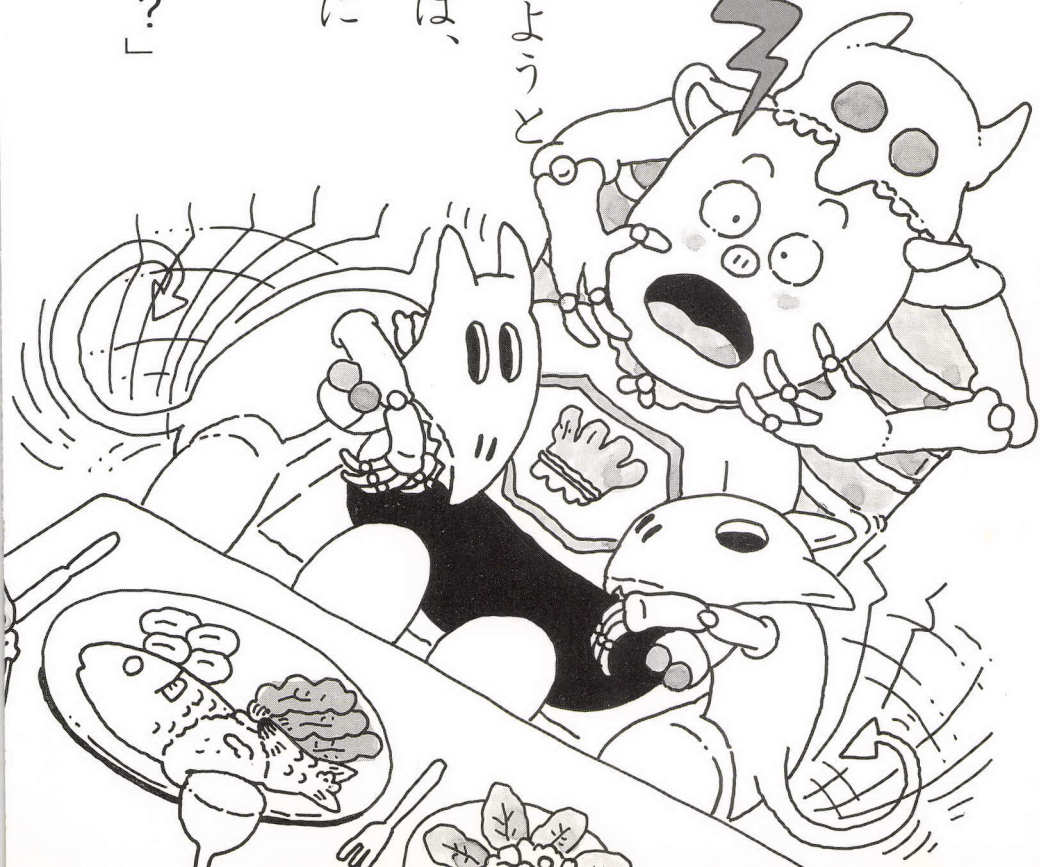
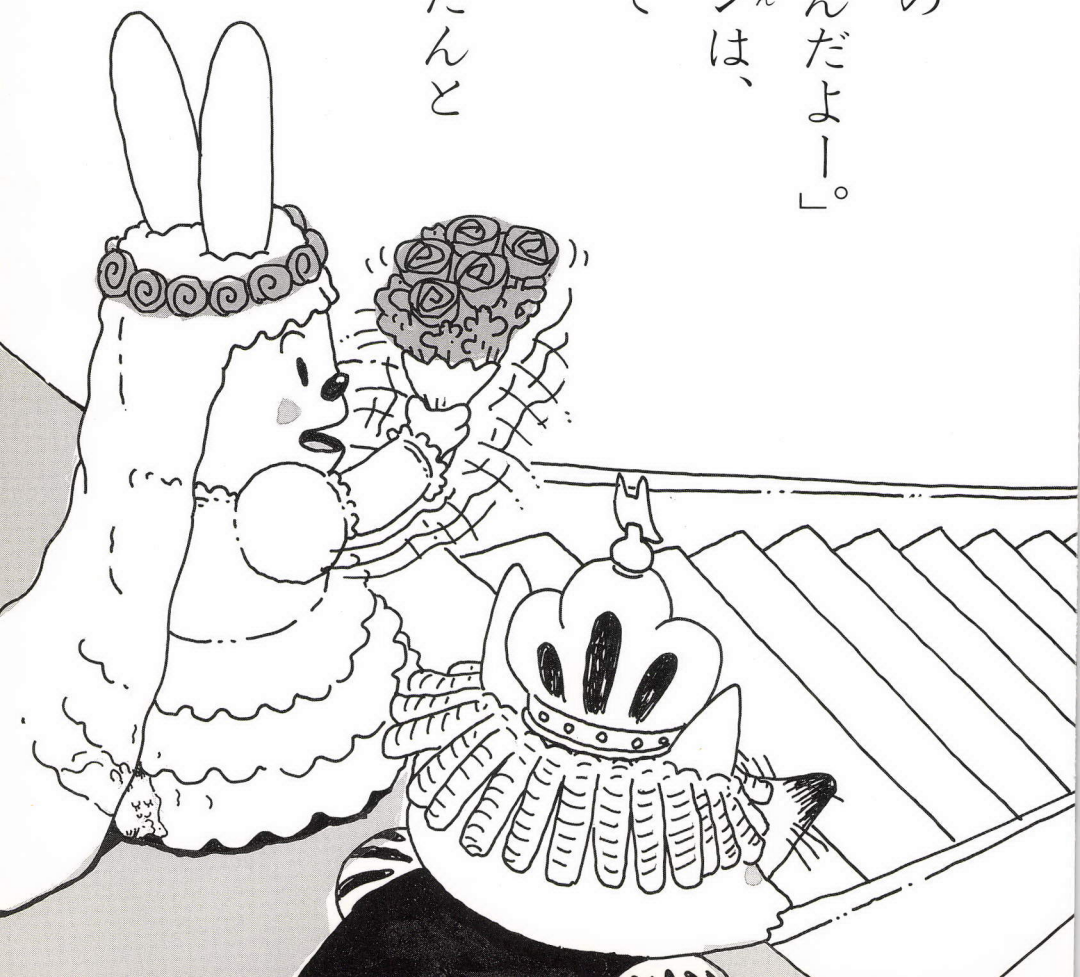
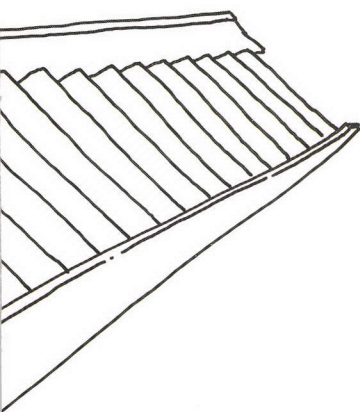
それは、
ゾロリの おもいのままに
なる おそろしい 〃さいみん こうせん〃
「す、すみれちゃんが、あぶない!!」

キーン……
ぼくしさん
ロボットの

すみれちゃんは、
ロボットの　目を　みつめました。

「さあ、けっこんの　ちかいを
しましょうね、すみれちゃん。
ぼくしさん　ロボットの
目を、じっと　みるんですよ。」
「はい、おうじさま。」

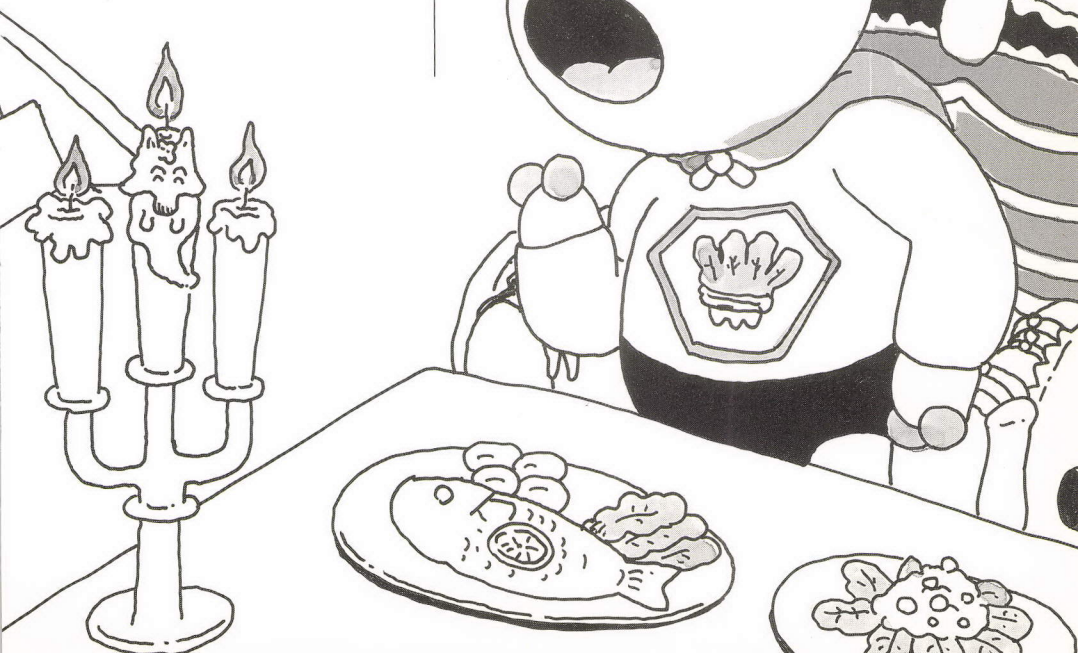
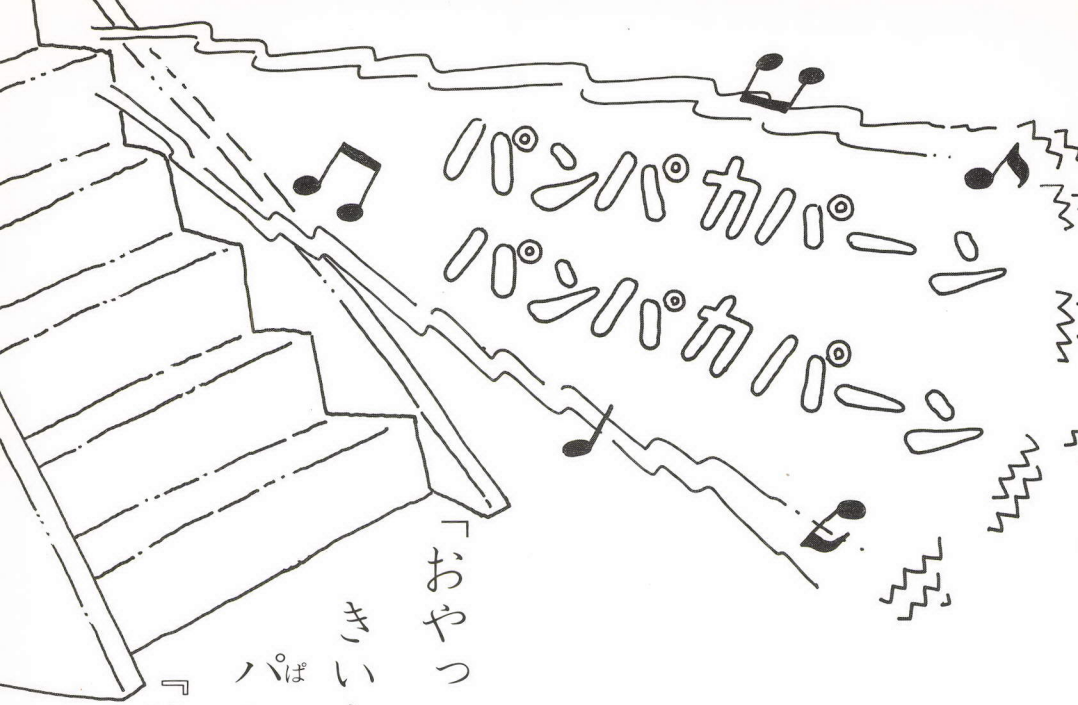
○この目(め)に みつめられると さいみんじゅつに かけられて ゾロリさまの おもいどおりに なって しまう きょうふの メカだ
パタパタ
○けっこんしきが おわれば しんこん りょこうへ すぐ とびたてます
スポット ライト
○日本(にほん)しきで けっこんしきを やりたいときには、かんぬしさん ロボットにも なります
ウエディング・ケーキ
きりとりせん
しんぷの のるだい
しんろうの のるだい
☆けっこんしきを もりあげる ドライアイスの けむりが でてくる

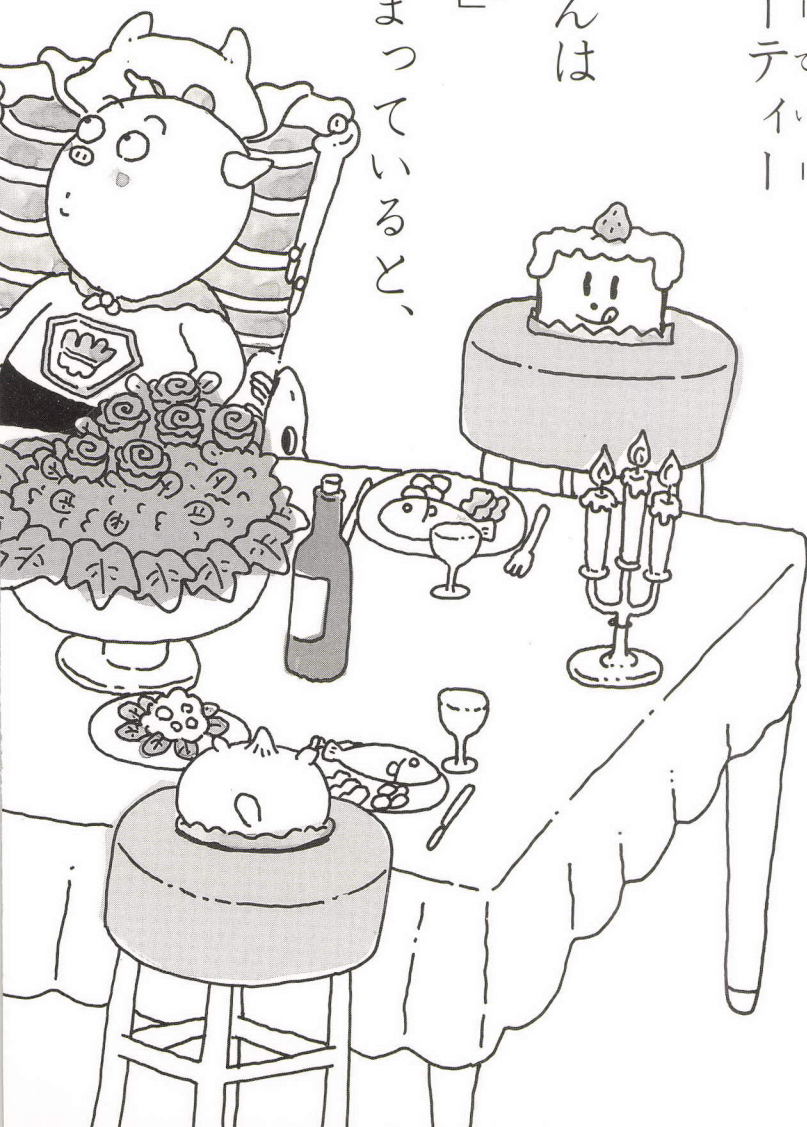
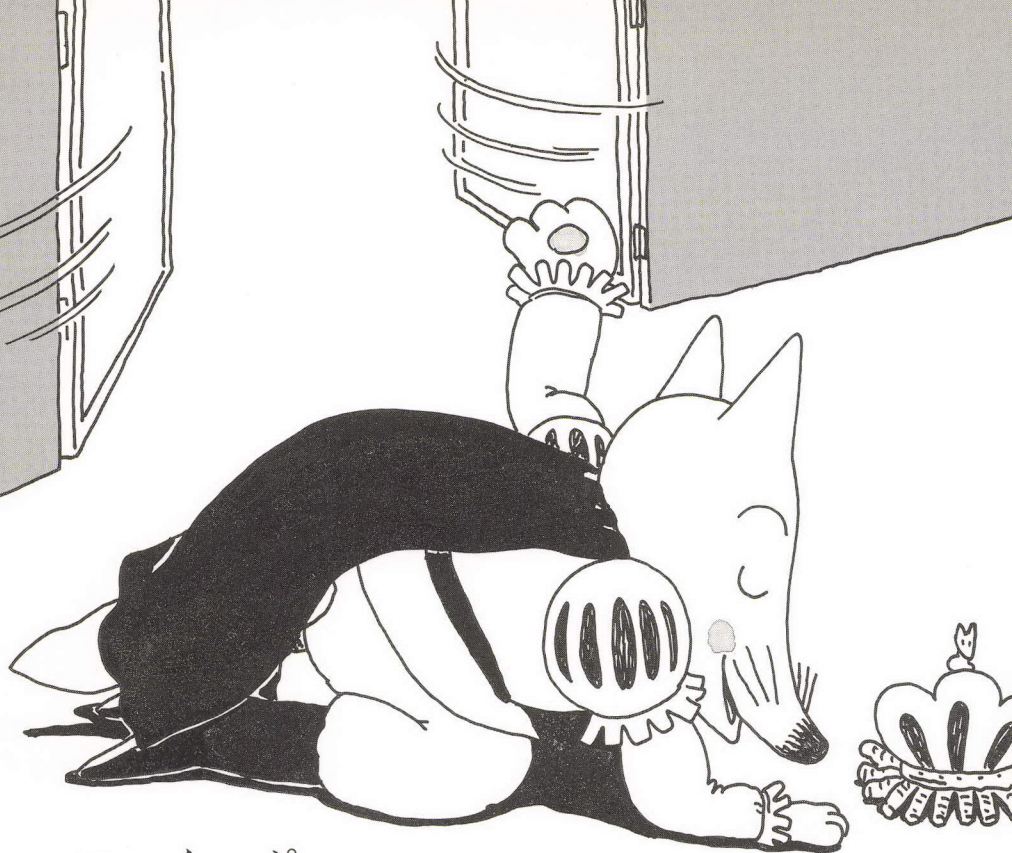
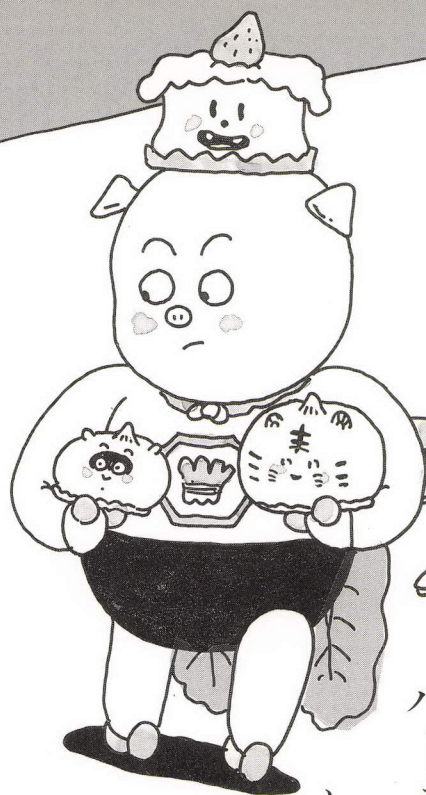
けっこんしきに　あったら　べんり
ぼくしさん　ロボット

「ヒッヒッヒ。ゾロリ家の のろいの かかった
〝ゆうれい いす〟じゃ。うごけば
うごくほど、しめつけてやるぞ。
ヒ、ヒ、ヒ。」
なんて、いすが
しゃべっています。
その あいだにも、
けっこんしきは
すすんで
いきます……。

ゆるせなーい!!
おやっ?
すみれちゃんを たすけようと
した ほうれんそうマンは、
みうごきが できないのに
きづきました。
「なんだ この いすは?」

これは　ほんとの
けっこんしきなんだよー」。
ほうれんそうマンは、
ありったけの　声で
さけびましたが、
おんがくが　いちだんと
大きく　なって、
すみれちゃんには
きこえません。

すみれちゃんは、
ほうれんそうマン(まん)を
みつけると、
手(て)を　ふります。
「あら、ほうれんそうマン(まん)、
そんな　ところに　いたの。
いま　わたしたち、けっこんしき
ごっこ　してるのよ。」
「ちがうよ、すみれちゃーん。

おうじさまに　ばけた
ゾロリが　いるでは、
ありませんか。

あっ、あれは

おんがくと
いっしょに
ながい
かいだんの上（うえ）に　あらわれたのは——
ウエディングドレス（うぇでぃんぐどれす）に
みを　つつんだ　すみれちゃん。
すみれちゃんの　よこには、

「おやっ　このきょく、
きいたことが　あるよ。
パン　パカ　パーン……そうだ、
『けっこん　こうしんきょく』だ!!」

「みなさま、それぞれの　いすに　おすわりください。」
と、ゾロリ。
「なんの　パーティー
だろうね。」
「すみれちゃんは
まだかなあ。」
四にんが　まっていると、
おんがくが
ながれて
きました。

すみれちゃんも
すぐに
おつれしますから。」
と　いって、
ほうれんそうマンと、
にくまんの　シマオ、
ポンチ、ショートケーキの
イヌジを、大ひろまに、
つれて　いきました。

「ほうれんそうマン、ぼくの
まけです。ごめんなさい。」
ゾロリは　いやに　すなおです。
そのうえ、
「おわびに、みなさんを、
パーティーに　ごしょうたい
します。つぎの
大ひろまに　おはいり
ください。もちろん、

あっ、
おまえは
かいけつ
ゾロリ!!
うひゃ～
たすけて～

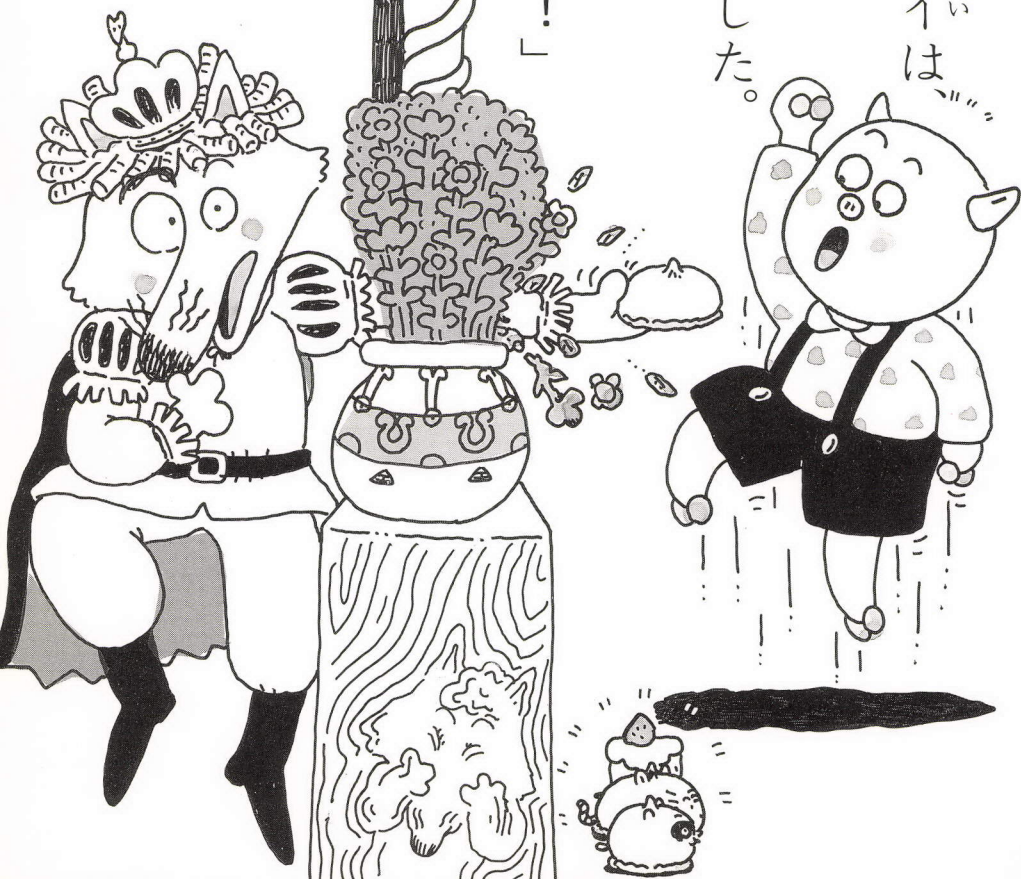
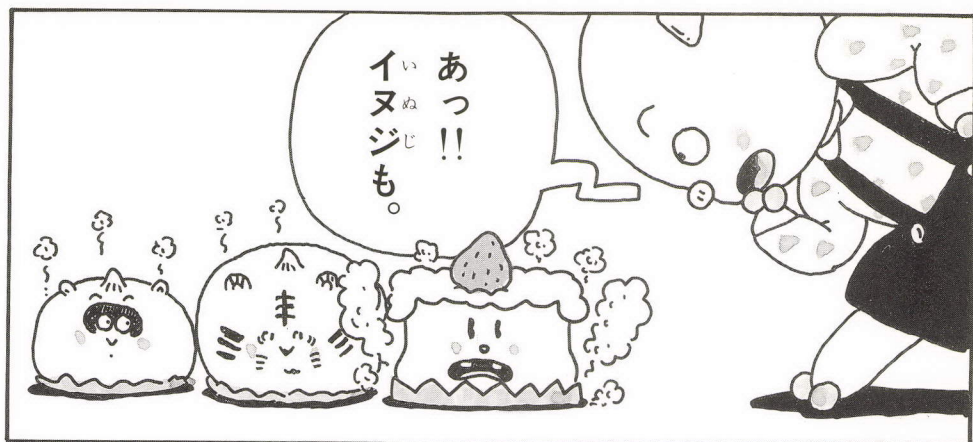
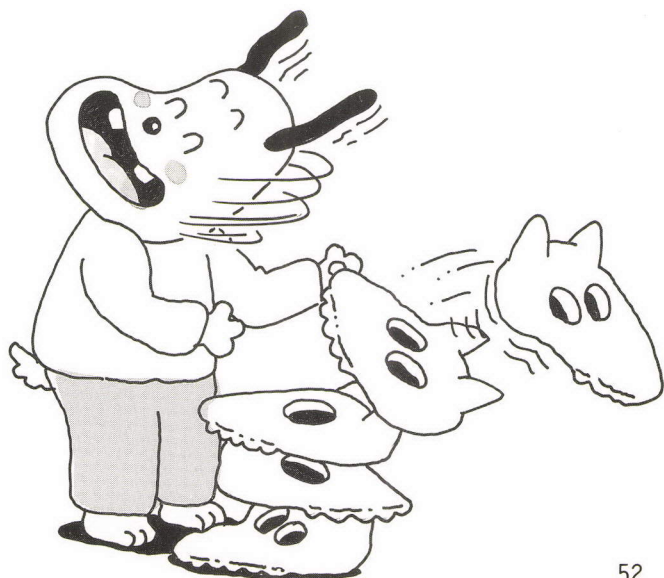
ジャ　ジャ　ジャーン!!

あっと　いうまに　ピンクの　おかお、みどりの
マントの　ほうれんそうマンに　へんしんです。

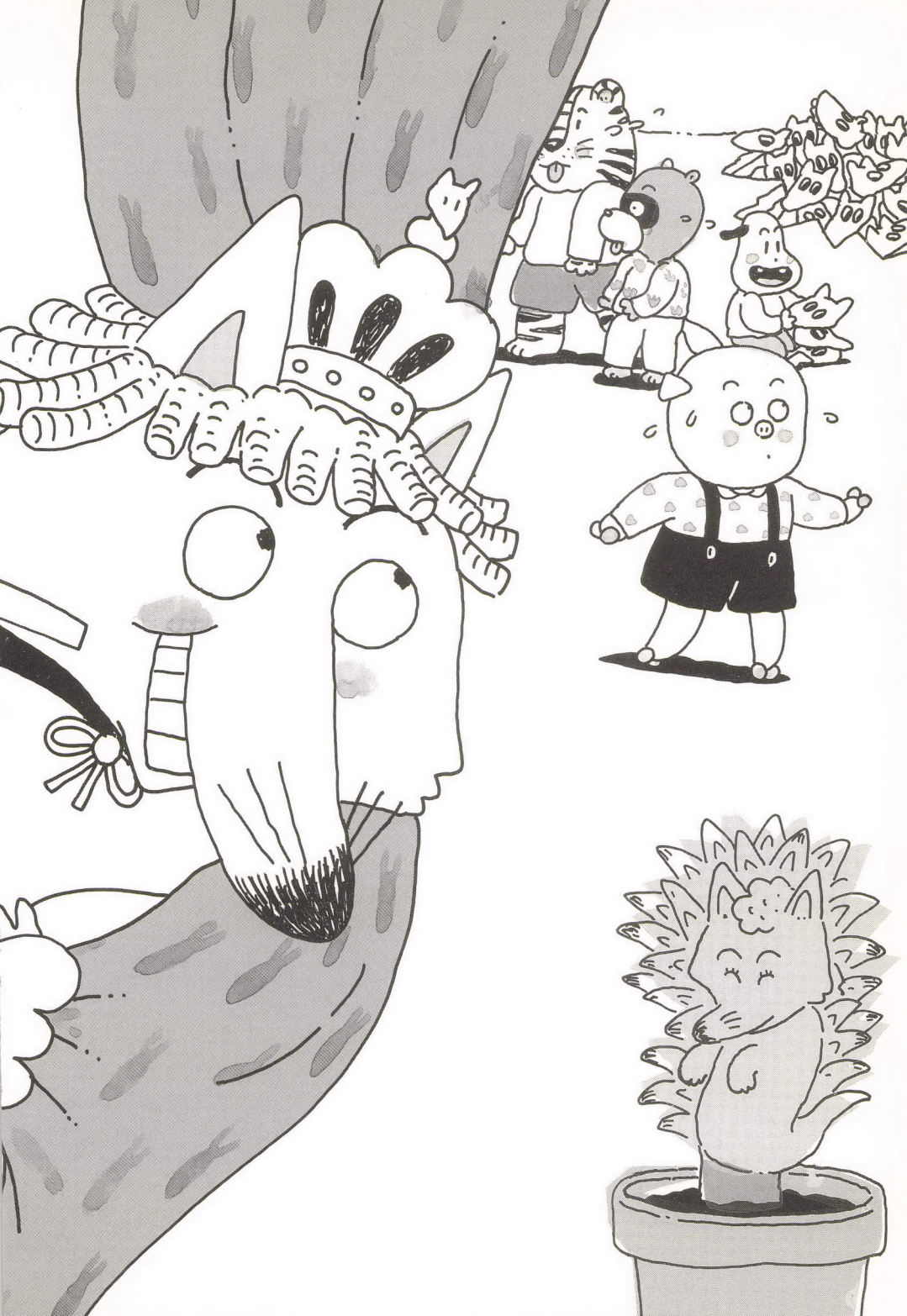
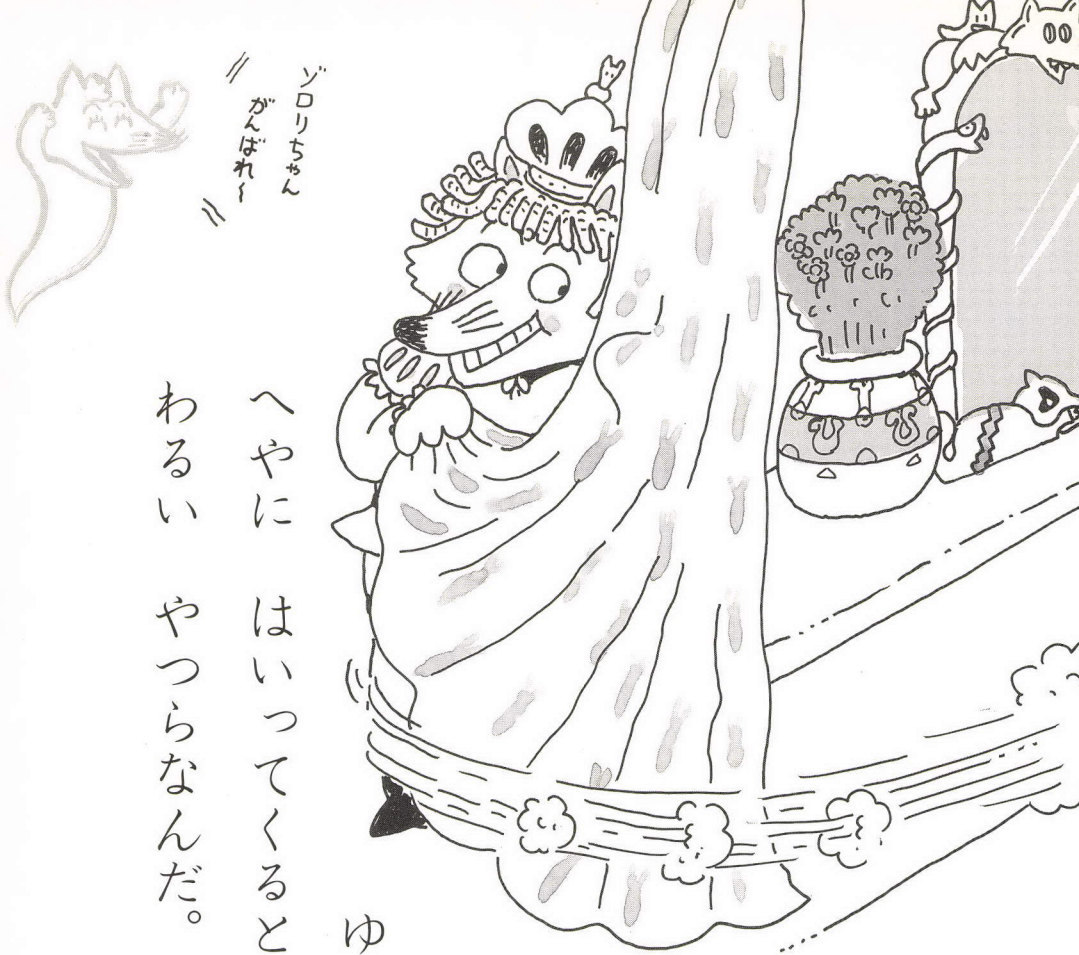
「かがみの　うしろに
かくれてるのは、だれだー。」

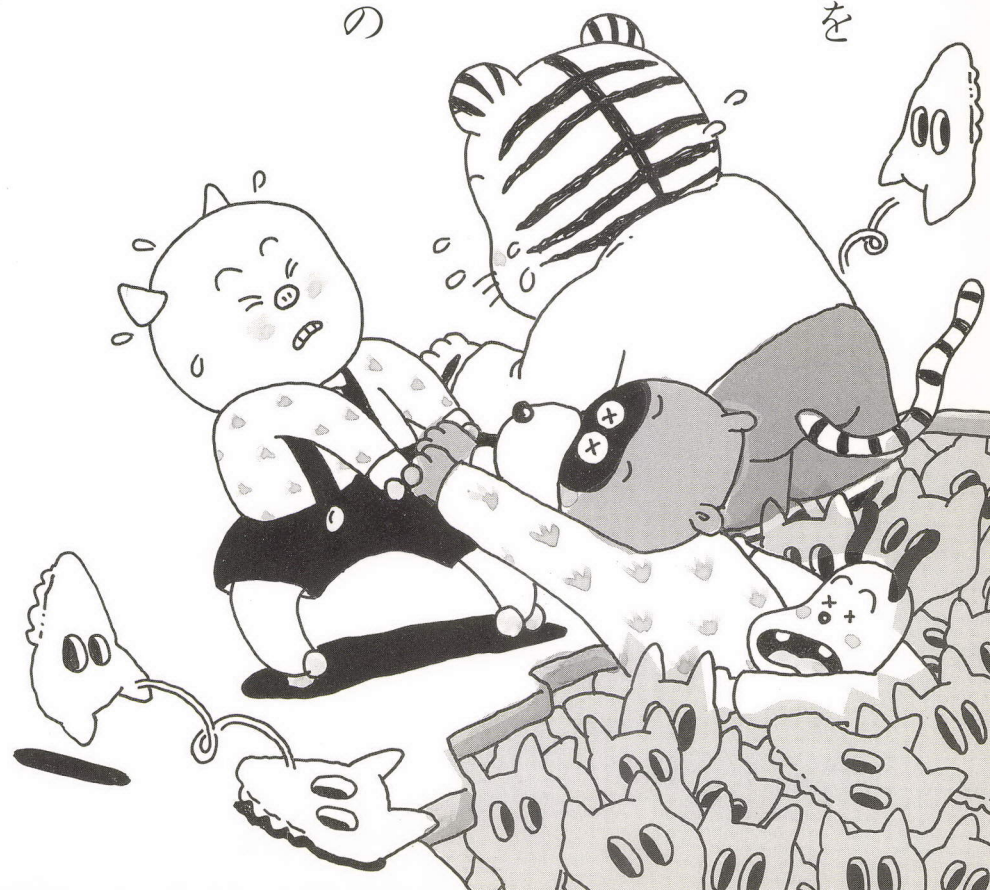
かんがえた　ポイポイは、
かがみに　むかうと、
大きな　声で　いいました。
「ぼくは、
ほうれんそうマーン！」

わかったぞ。この　かがみに
すきなものを　いうと、へんしん
させられちゃうんだな。
ぼくの
だいすきなのは……
すみれちゃん。
いや、
この　へんしんかがみを
うまく　つかえば　いいんだ。
うーん……

ニヒ
ニヒ
ニヒ
シマオ～
ポンチ～
だいじょうぶかい
…………
……

にくまんと　きいて、
ふりかえった　イヌジ(いぬじ)は、
「ぼく、もう　しょくじ
すんだから、にくまんは
いらないや。デザート(でざーと)の
ショートケーキ(しょーとけーき)が　いいな。」
と、いいました。
ボン(ぼん)　ヨ(よ)　ヨ(よ)　ヨ(よ)〜〜ン(ん)

ふたりは、
おもわず
「にくまん!!」

「ねえ　ポンチ、　きみのわるい　かがみが　あるよ。
ほら　みてごらんよ。」
シマオと　ポンチが　ゆうれいかがみを
のぞきこむと、　かがみが　しゃべりだしました。
「おまえの　いちばん　すきなの　なんだ。
いえば　かなえる、　ゆうれいかがみ。
どうぞ――」。
そして、　かがみの　よこから、
にくまんが　ニューウと　でてきました。

ゾロリは　ひらりと　かがみの
うしろに　もぐりこみました。

「てんじょうに、あなが　あいてたのに、おれさまは　きがつかなかった。だがな、よりに　よって、この　ゆうれいかがみの　へやに　はいってくるとは、なんて　うんの　わるい　やつらなんだ。ニヒニヒニヒ。」

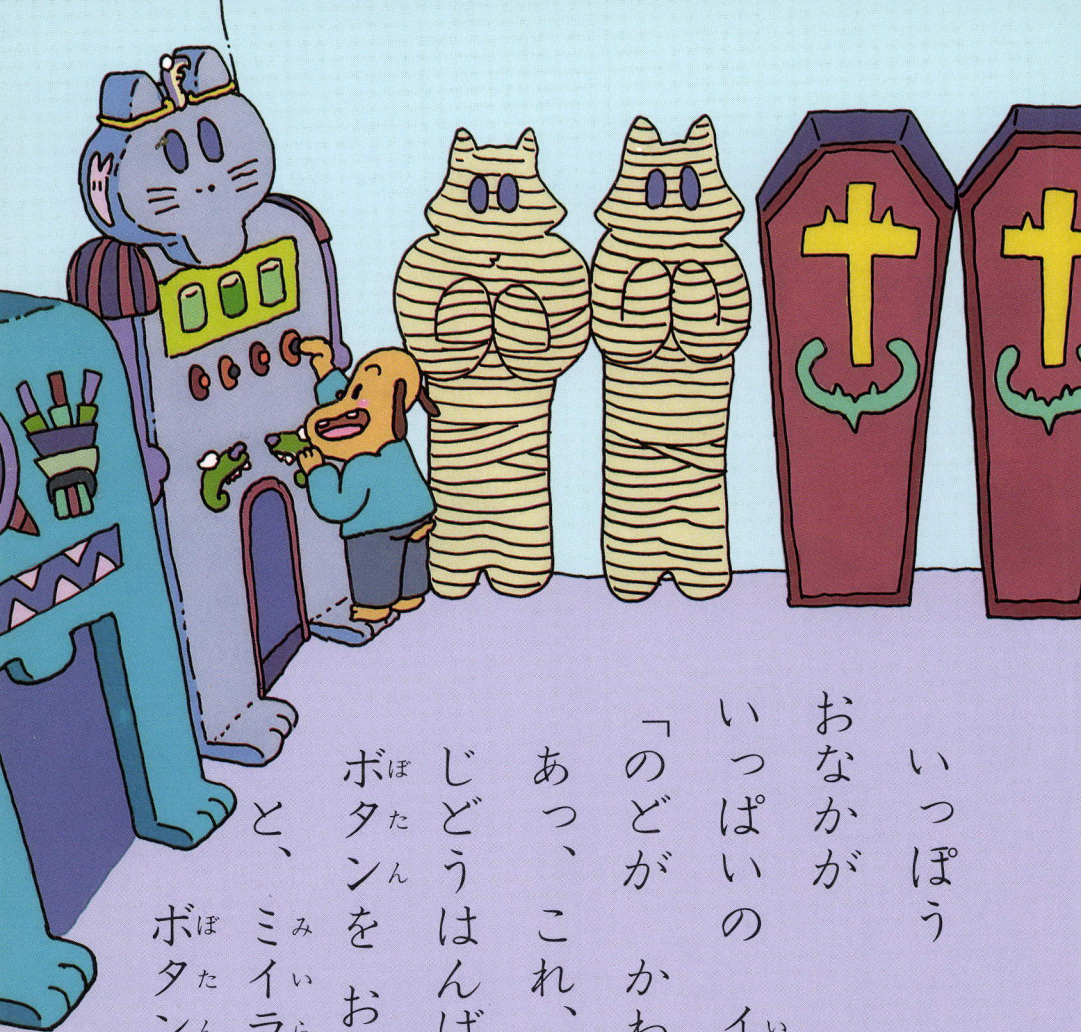
てんじょうの　あなを
ぬけると、そこは
ゆうれいかがみの
へやでした。
けっこんしきに
そなえて、みだしなみの
チェックを　していた
ゾロリは　びっくり。

あっ、あなが
あいている。
みんな　あの　あなから
だっしゅつだー!!

とうとう、てんじょうに　くっついて、もうすこしで
おしつぶされそうに　なったときです。

ぼくたちも
この がいこつ
みたいに
なっちゃうのかなー。
四にんは、なんとか がいこつに
うまらないように、上へ 上へと
のぼっていきます。
ゴロ
ゴロ
ゴロ
ゴロ
ゴロ
ポコッ

ゴロゴロ　ゴロゴロ
ゴロゴロ　ゴロゴロ……
このままじゃ、
がいこつの　やまに
うまっちゃうよ〜。

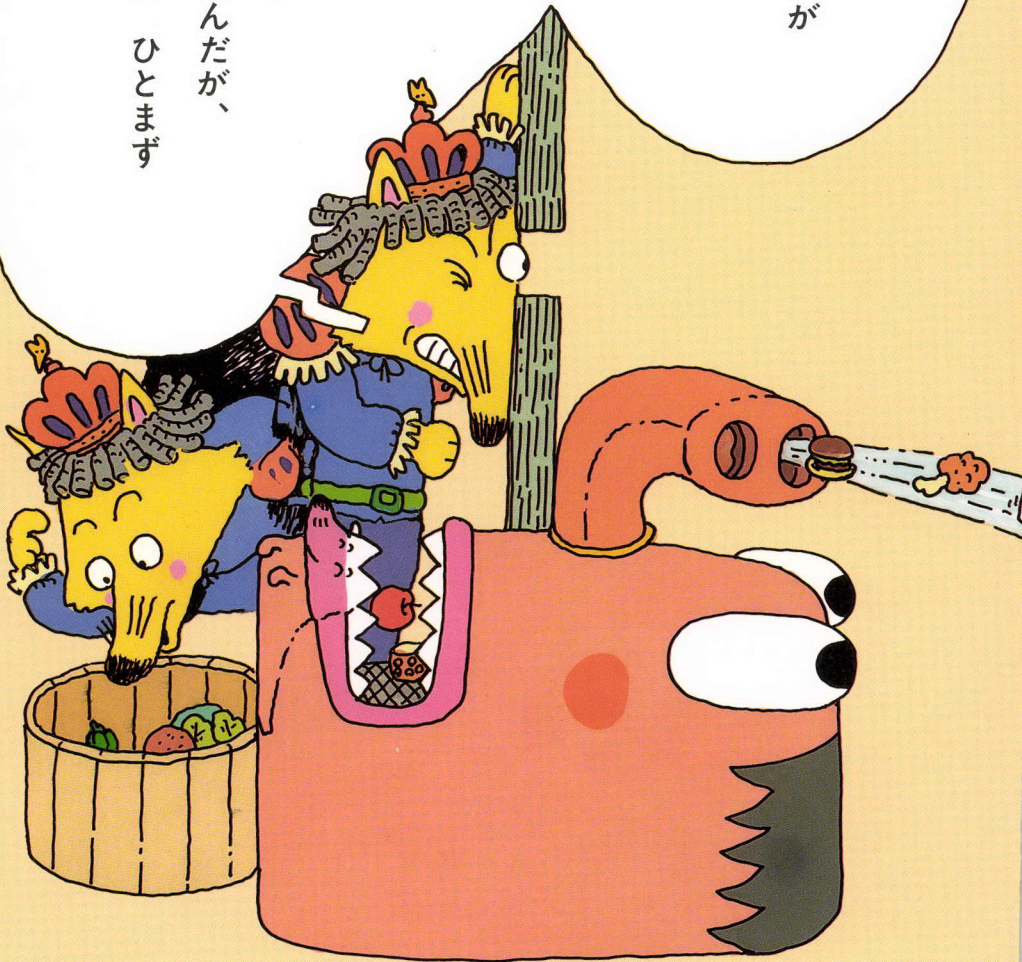
「わーっ、どうしよう。
がいこつが　とまんないよ――」。

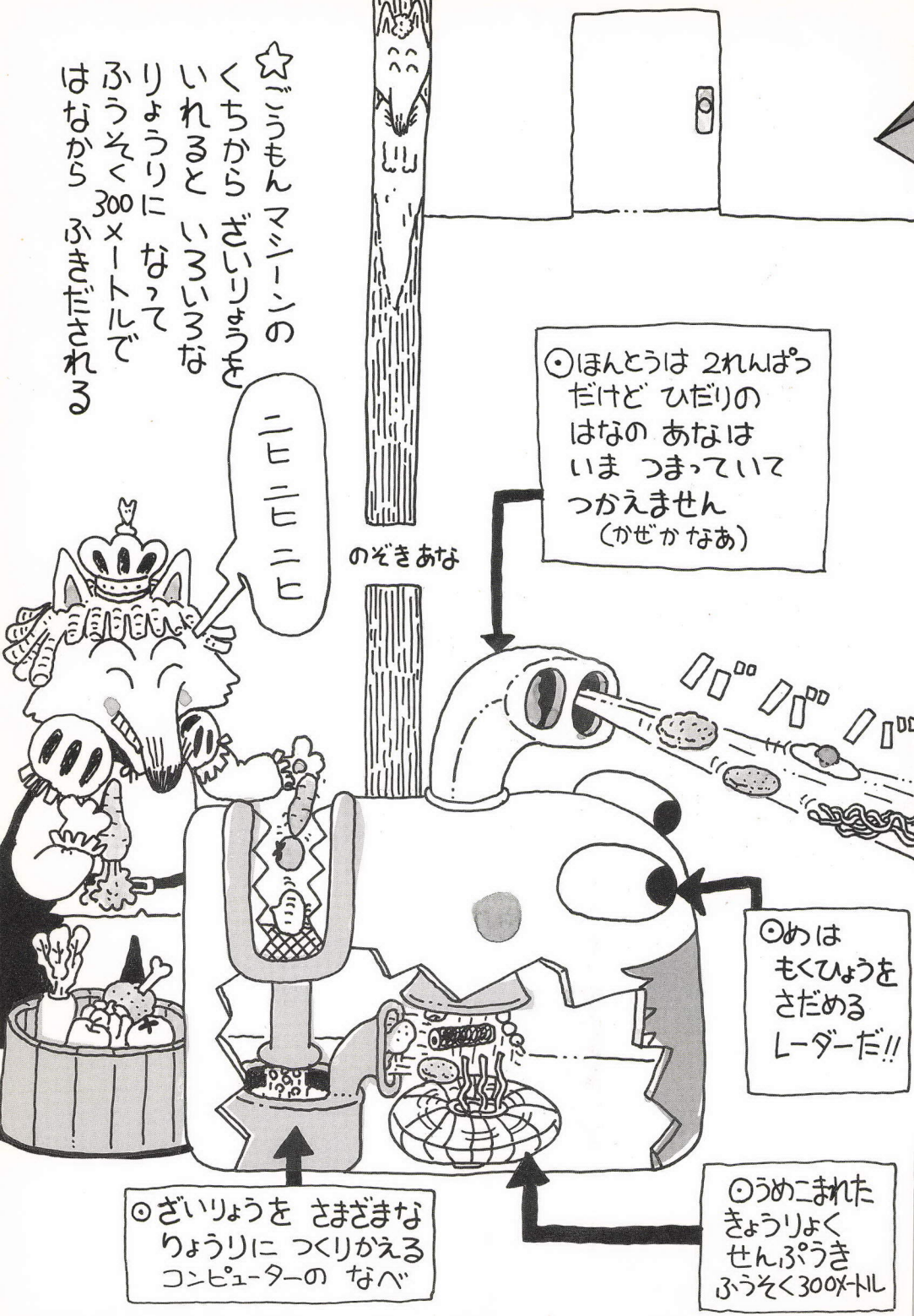
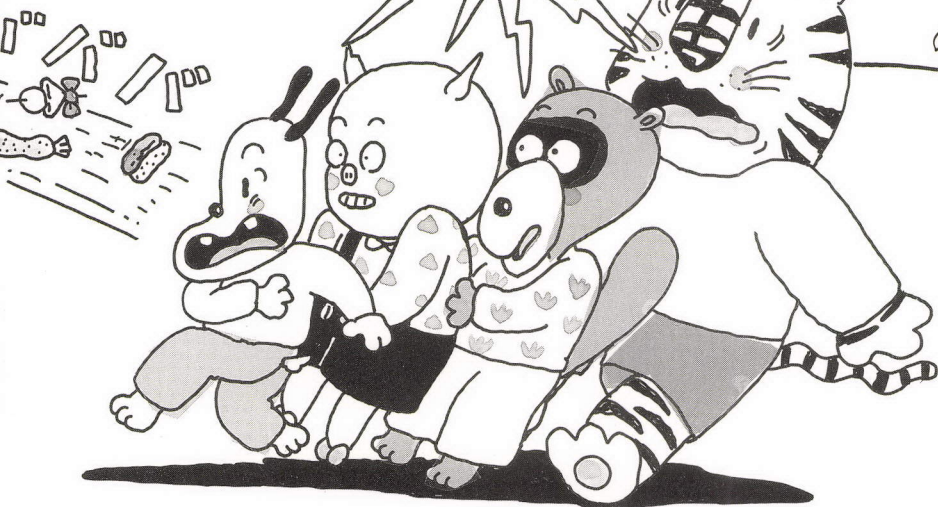
ゴロゴロ　ゴロゴロ
ゴロゴロ　ゴロゴロ
「ウヒャー！」
おいしい　ジュースでは
なく、ミイラの　はこ
からは、おそろしい
がいこつが
ころがりでて
きました。

いっぽう
おなかが
いっぱいの　イヌジは、
「のどが　かわいたなあ。
あっ、これ、ジュースの
じどうはんばいきかな。
ボタンを　おしてみよう。」
と、ミイラの　はこの
ボタンを　おしました。

はいってきた へやは、
なんと、ミイラで いっぱい。
おしろを つくったときに、
おしろの下に あった、
ミイラや ほねを、ここへ
ぜーんぶ ならべたのです。
ポイポイは、いよいよ
ふるえが とまりません。

ポンチ、シマオ、イヌジも、
あわてて　あとを　おいかけます。

たべものが　とんでこなくなると、へやの　すみに
あった　ドアが、いきおいよく　ひらきました。
「すみれちゃんは、あの　ドアの、むこうの
へやに　いるのかも　しれないね。」
ポンチが　いうと、ポイポイは、
「すみれちゃーん。」
と　よびながら、つぎの　へやに
はしっていきました。

しまった。イヌジが
いることを
わすれていた。
けっこんしきの
りょうりの
ざいりょうまで
なくなってしまい
そうだし、ざんねんだが、
この　さくせんは　ひとまず
おしまい。

だいじょうぶ。ポイポイたちには　くいしんぼうの
イヌジが　ついています。とんでくる　たべものを
つぎつぎと、ぜんぶ　パクパク　たべてしまいました。

☆ごうもんマシーンの
くちから ざいりょうを
いれると いろいろな
りょうりに なって
ふうそく300メートルで
はなから ふきだされる
ニヒ ニヒ ニヒ
のぞきあな
⊙ほんとうは 2れんぱつ
だけど ひだりの
はなの あなは
いま つまっていて
つかえません
(かぜかなあ)
ババババ
⊙めは
もくひょうを
さだめる
レーダーだ!!
⊙ざいりょうを さまざまな
りょうりに つくりかえる
コンピューターの なべ
⊙うめこまれた
きょうりょく
せんぷうき
ふうそく300メートル

あなただけに　みせる
たべもの　ごうもんしつの
からくり
そこは、ゆうれいじょうの
ごうもんしつ
だったのです。
うわーっ!!
☆ここは たべものを
いやと いうほど
たべさせて おなかを
はれつ させようと する
ごうもんしつだ!!

「おや、おや、それなら
こちらも　おまえたちを、おもてなし
しなくては　ならないな。さ、おくへ　どうぞ。」
声が　きえると　どうじに、ドアが
パタンと　しまりました。

「すみれちゃんは、わたくしの　だいじな
おきゃくさま。いま、大ひろまで、
おもてなしを　しているところだ。
ごしんぱいなく　おかえりください。
フウフッフッフッ。」
と、また　ぶきみな声。

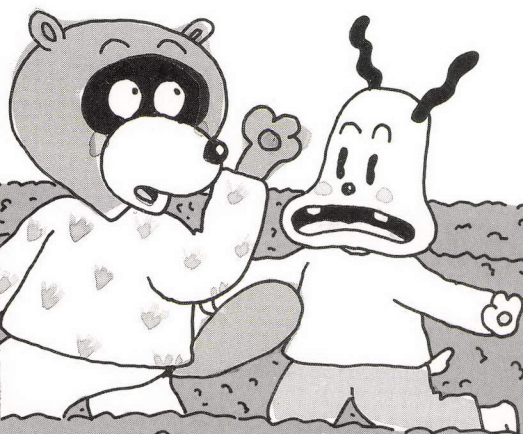
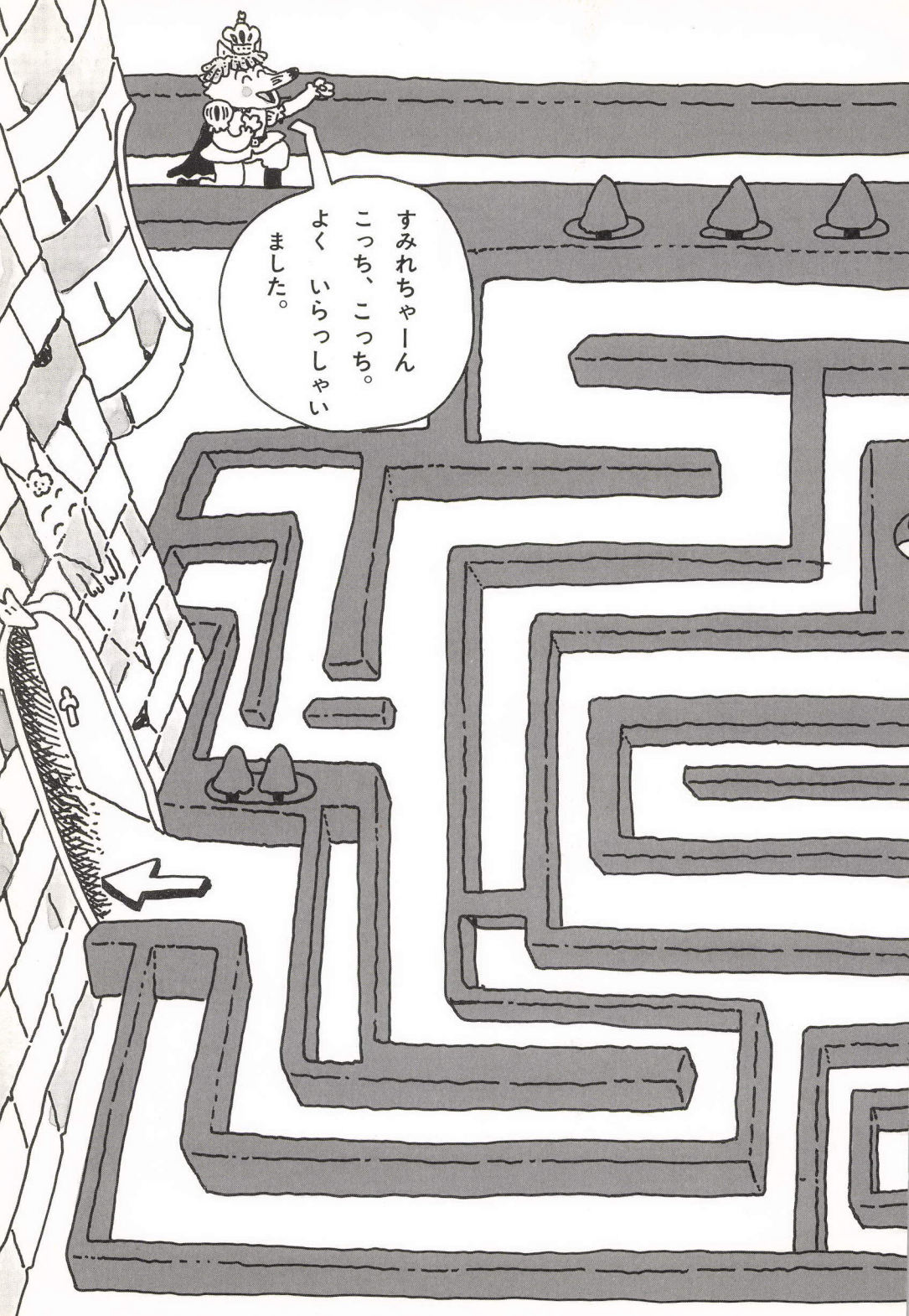
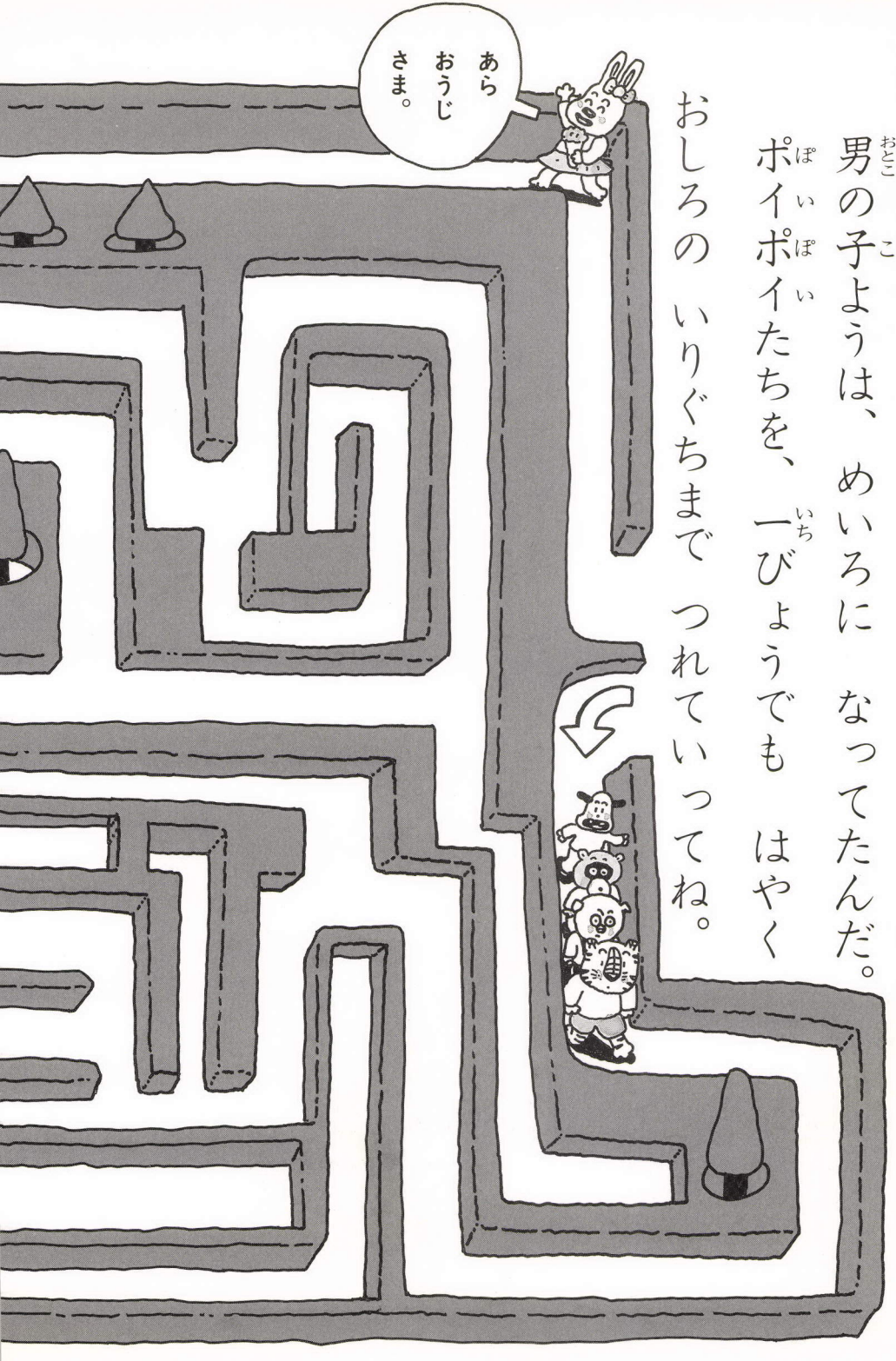
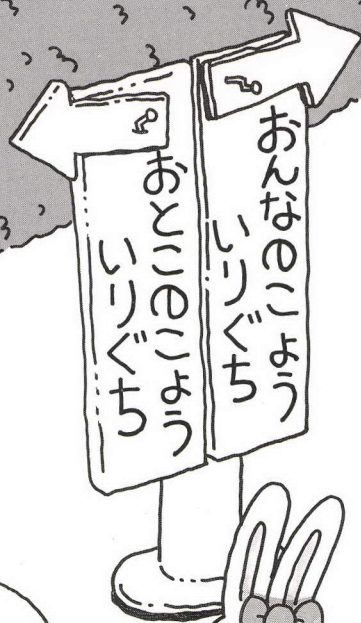
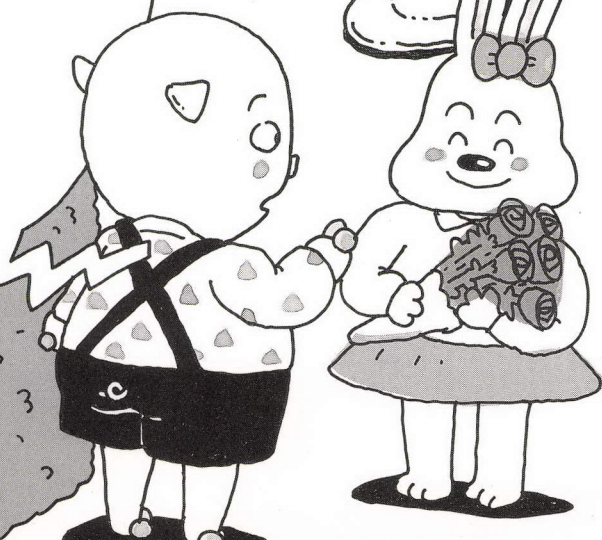
ゆ、う、れ、い という ことばを
きいただけで、ゆうれいの
きらいな ポイポイ(ぽいぽい)は ふるえだしました。
でも ゆうきを ふりしぼって、
「す、す、すみれちゃんは、
ど、ど、どこに いるんだ！」

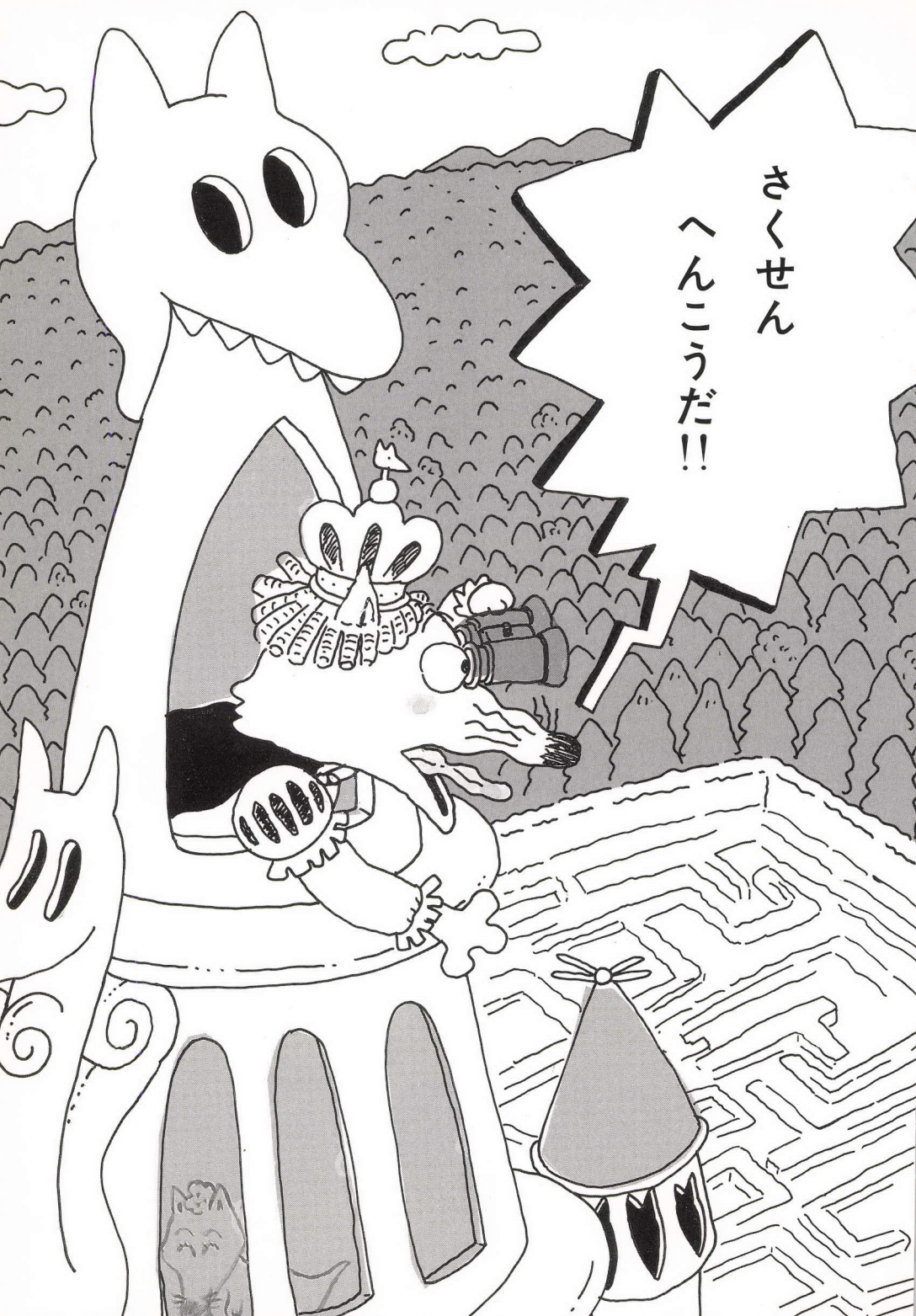
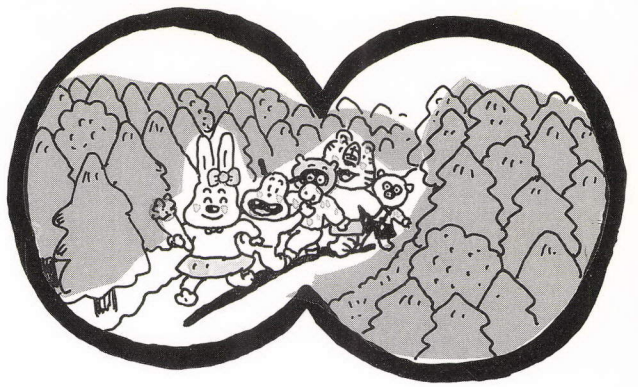
「フッフッフ、ごしょうたいもして
いないのに よくきたな、ポイポイ。
ここは ゆうれいじょうだぞ。
こわかったら、かえるのは
いまのうちだ!!」
ぶきみな 声が どこからともなく
きこえてきました。

もう　おしろに
はいっちゃったの
かなあ。」

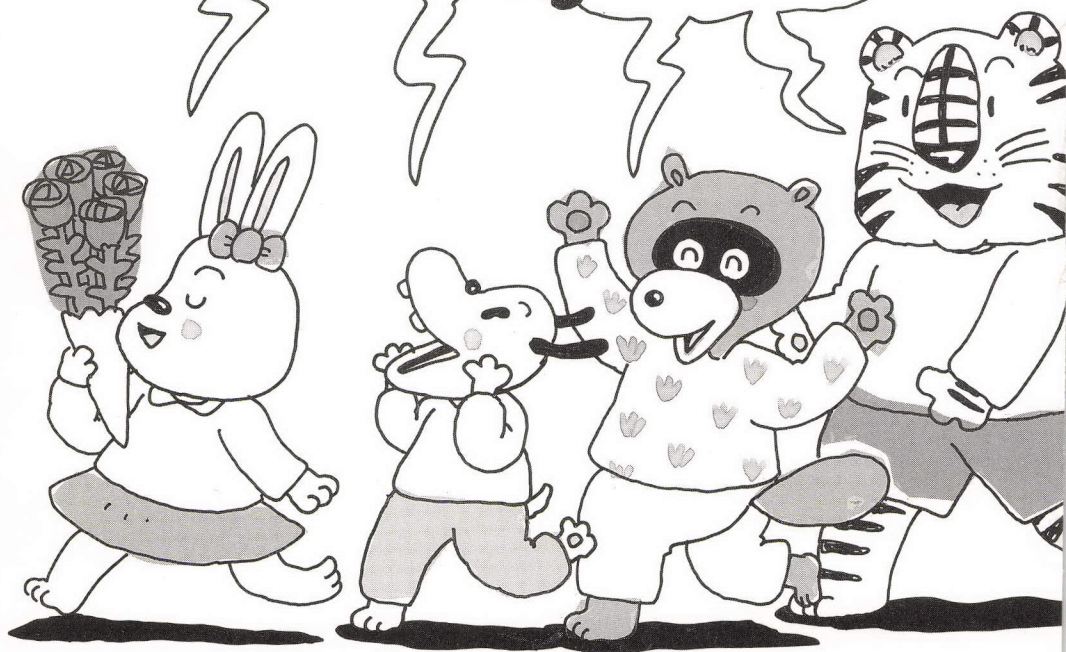
四(よ)にんが　おそる　おそる　なかに　はいっていくと……

ポイポイたちは、なんとか　おしろの
いりぐちに　たどりつきました。
いりぐちから　なまあたたかい
かぜが　ふいてきます。
「ここ、まえは　おはかが
あった　ところだよ。うすきみ
わるい　ところに、おしろを
たてたもんだなあ。」
「す、す、すみれちゃんは

すみれちゃーん
こっち、こっち。
よく　いらっしゃい
ました。

男の子ようは、めいろに　なってたんだ。
ポイポイたちを、一びょうでも　はやく
おしろの　いりぐちまで　つれていってね。
あら
おうじ
さま。

ぼくたち
女の子ようの
いりぐちには　はいれないよ。
おしろの下で
あおうね、すみれちゃん。

なかよし　五にんぐみが　おしろの
にわの　いりぐちまで　くると、
みちが　二つに　わかれて　いました。

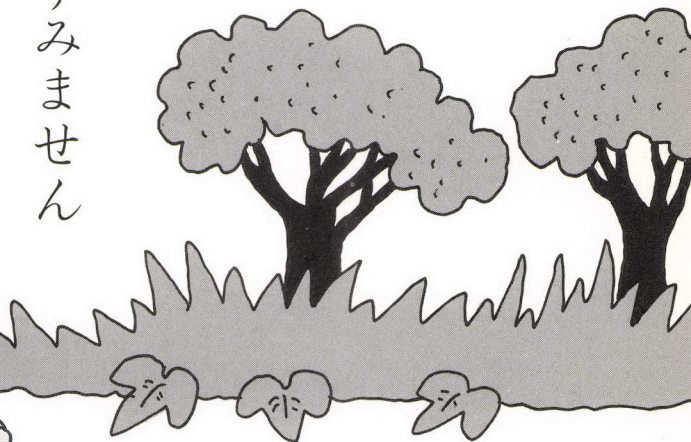
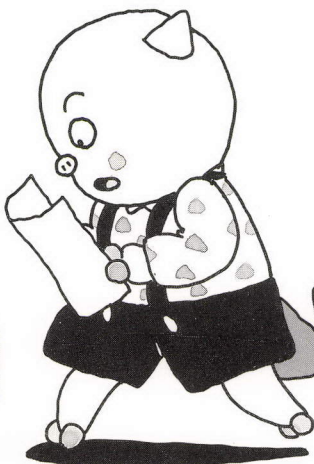
さくせん
へんこうだ!!

ミドロ森の　おしろの上で、すみれちゃんが　くるのを、いまかいまかと　まっているのは、おうじさま、いえ、ゾロリでした。そうがんきょうでみはっていた、ゾロリは、うたを　うたってくる　なかよし　五にんぐみを　みつけました。

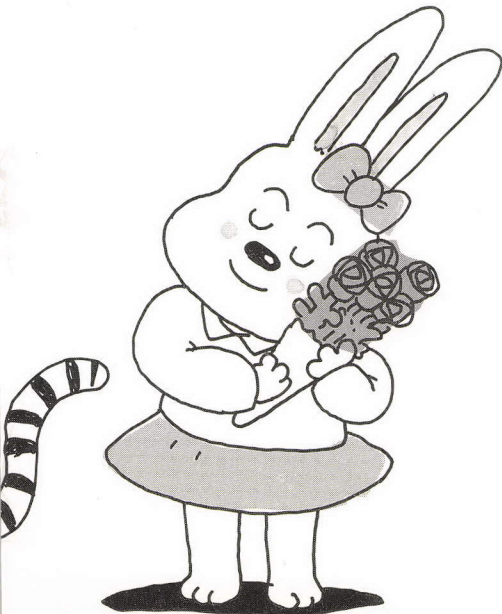
「ありゃりゃ、みんな　ついてきちゃった。せっかくすみれちゃんと　ふたりっきりで、けっこんしきをしようと　おもっていたのに、よーし　しかたない。」

ぼくらは　なかよし　五にんぐみ
ミドロ森の　おしろへ　いくところ
おうじさまって　どんな　ひと？
はくばに　またがり
むかえに　くるのかな？
それとも　ばしゃで
おでむかえ？
ぼくらは　なかよし　五にんぐみ

「イヌジが　いくなら、ぼくも
いくよ。」

「じゃあ、ぼくらも　いこうか、
ねえ　ポイポイ。」

「う、うん。」

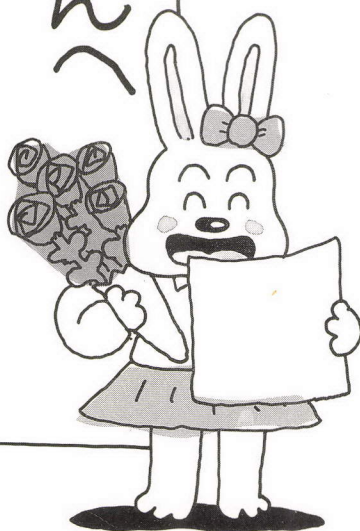
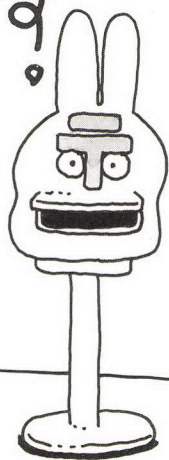
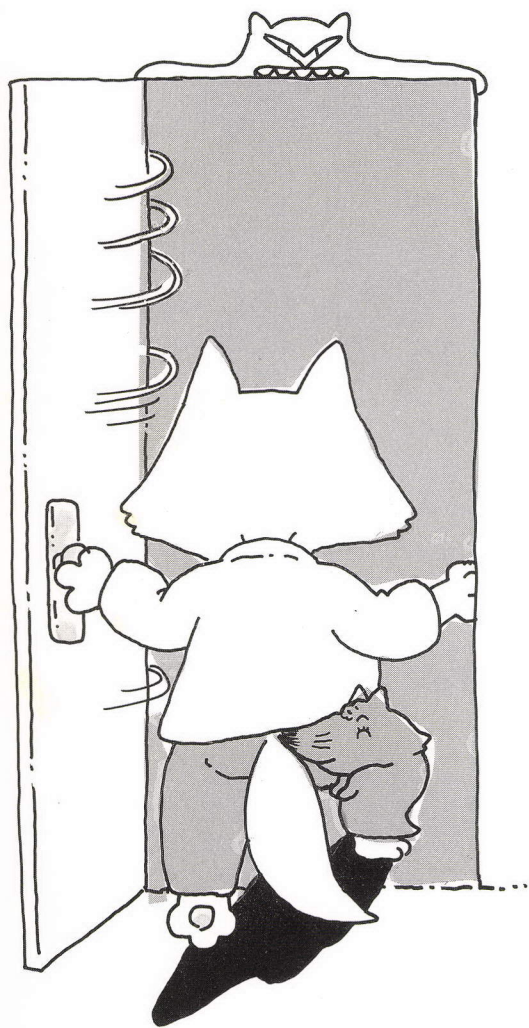
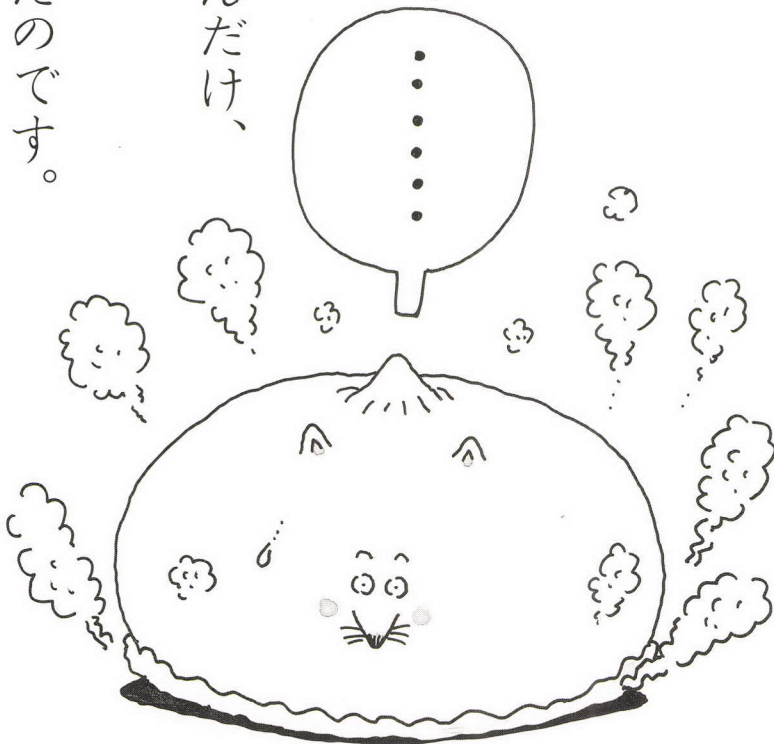
ポイポイは、あまり　きが　すすみません
でしたが、すみれちゃんのことが
しんぱいなので、いっしょに
みんなと　いくことに　しました。

おごちそうして　もらうように、
わたしから　たのんで
あげるから、いっしょに
いきましょうよ。」
かわいいけれど、きの
つよい　すみれちゃんが
いうと、くいしんぼうの　イヌジ（いぬじ）は、
「そうだよ、いこう　いこう。
おごちそう　たべに　いこうよ。」

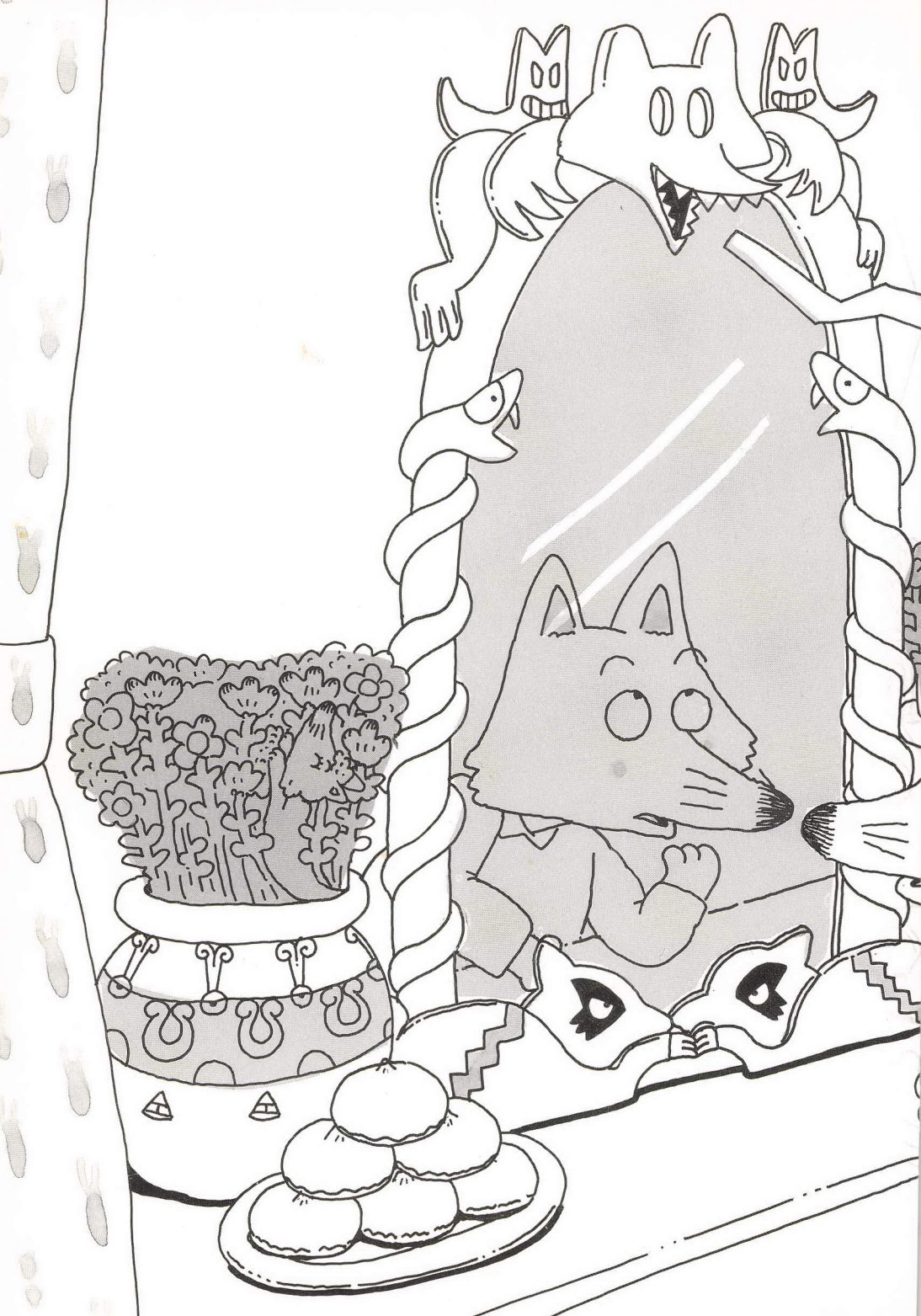
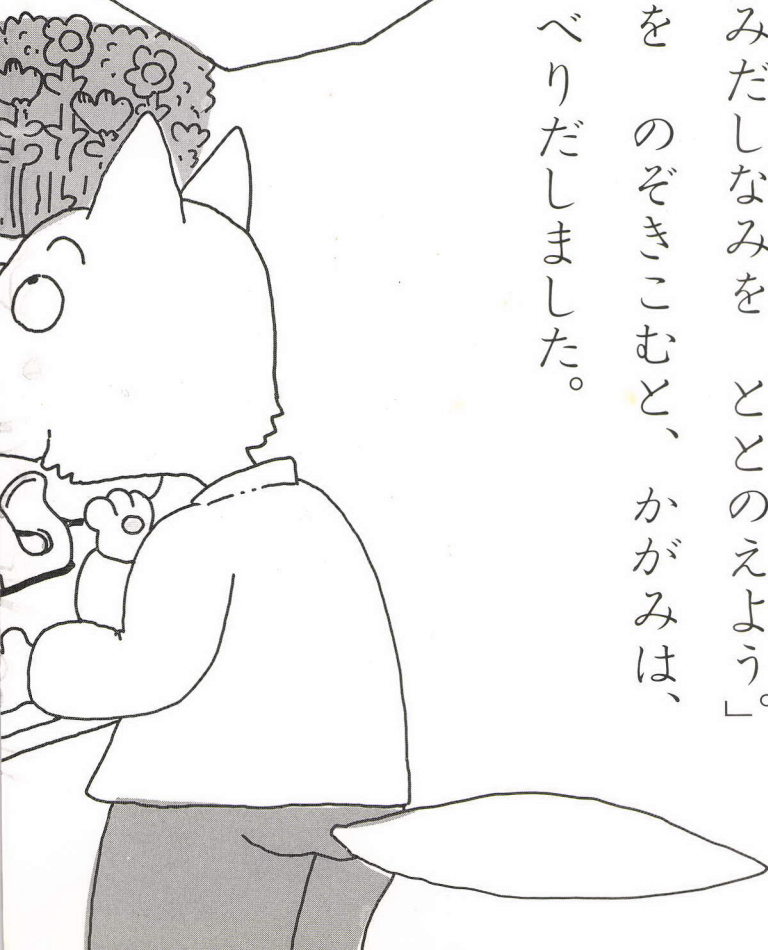
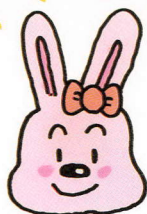
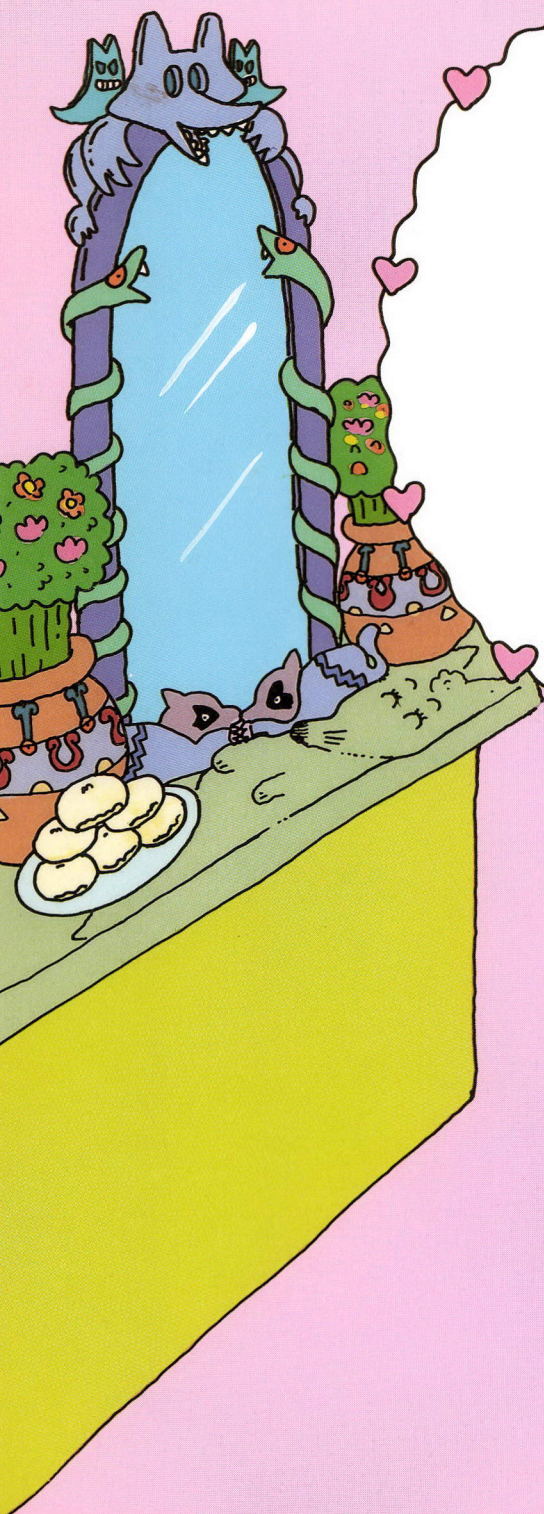
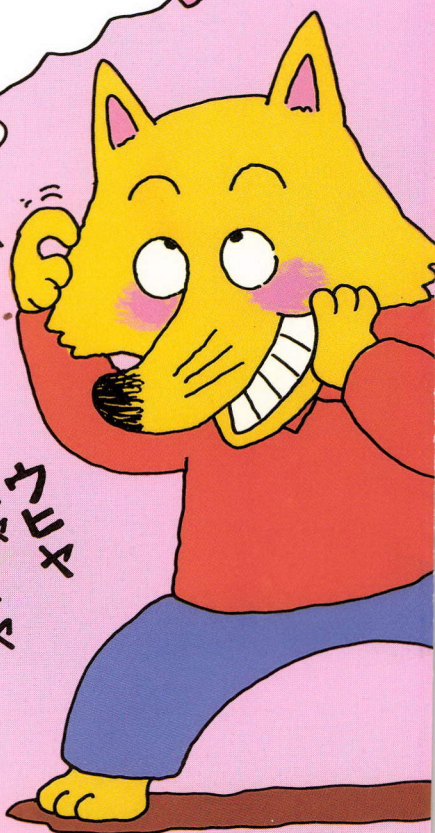
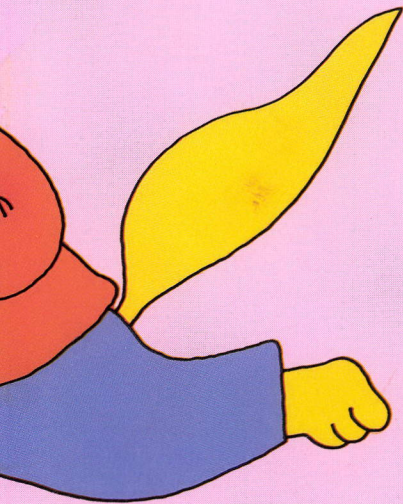
すみれちゃんは、ポイポイや　とらの　シマオ、
いぬの　イヌジ、たぬきの　ポンチに　てがみを
みせて、そうだんしました。
「ミドロ森に、おうじさまなんて、いたっけ？」
「ものすごーく　あやしいぞ。」
「バラの花と　おうじさま。
ああ、なんて　ロマンチック
なの。わたし、おうじさまを
しんじるわ。みんなにも

プレジェントと　おいしい　おいしい
おごちそうを　よういして
おまちして　おりますんですよ
ミドロもりの　おしろに
ぜひ　きて　くださいませね

カッコイイ　おうじさまより

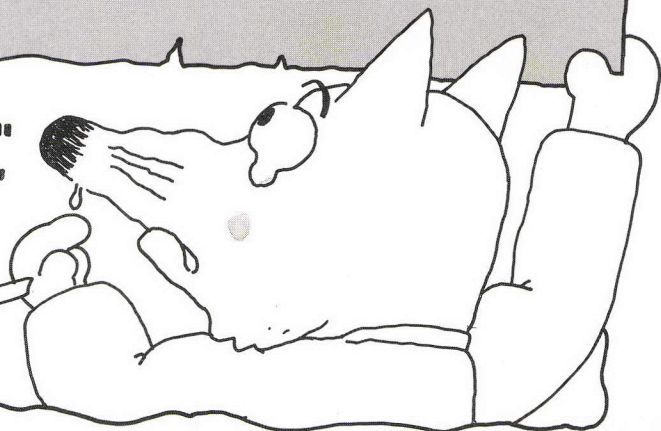
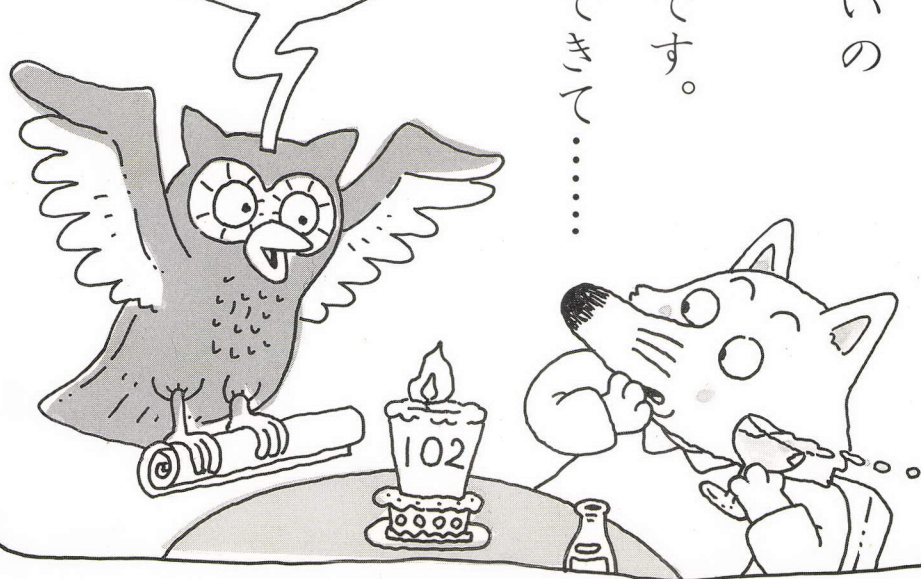
← わたしです

ある日、すみれちゃんが　ピアノの
おけいこから　かえってくると、バラの花と
てがみが　とどいていました。

びじんで　かわいい　すみれちゃんへ
ぼくは　ミドロもりの
おうじさまで　すでございます。
すみれちゃんに　すてきな

三十ぷんご、にくまんから　ゾロリに　もどれると、
「あー、ひどいめに　あった。にくまんに　なるより、
たべるほうが　ずっと　いいのになあ……。」
ゾロリは、しょさいへ　きえていきました。

ボン　ヨヨ　ヨ〜〜ン
ゾロリは、　ふかふかの
にくまんに　なって
しまいました。
　この　ゆうれいかがみは、
かがみを　みながら
いった　ものに、　三十ぷんだけ、
すがたを　かえてしまう
おそろしい　かがみだったのです。

それで、
よだれを
たらしながら、
おもわず
口から でてしまった ことばは、
「にくまん！」

「すみれちゃん」と　こたえようと　した
ゾロリは、かがみのよこの　おさらに
のっている　にくまんを、ちらっと
みてしまいました。

「けっこんするには　おしゃれを　して、すみれちゃんを、
おむかえしなくてはね。おや、ちょうど　いいや。
この　かがみで　みだしなみを　ととのえよう。」
ゾロリが　かがみを　のぞきこむと、かがみは、
ひくい　声で　しゃべりだしました。

すみれちゃんに
きまってるじゃ
ないか。
こんなこと
おれさまに　いわせるなよ。
てれるな～。
ウヒャ
ウヒャ
ウヒャ
ウヒャ

「そう、そのとおり。おれさまは　もう　りっぱな
おとなに　なったんだもんね。
およめさんと　いっしょに、ママの　つくって
くれた　この　ゆうれいじょうに　すむんだもんね。」
ゾロリは、ウヒウヒ　大はりきり。
というわけで、ゾロリは　どら声を　はりあげて、
うたっていたのです。

102さいに なった かわいい ゾロリちゃんへ
ゾロリちゃんは もう りっぱな
おとなに なったのかしら？
あなたと かわいい およめさんの
ために ミドロもりの
きつねいちぞくの おはかの うえに
すてきな ゆうれいじょうを たてて
おいたのよ。 およめさんを みつけたら
いっしょに すんでね ゾロリ ちゃん
ゾロリちゃんを いつでも みまもる ママより

グズッ

やさしい ママー
ありがとう。

きのう、ゾロリが　ひゃく二さいの
たんじょう会を、ひとりっきりで
おいわいしていた　ときの　ことです。
一わの　ふくろうが　とびこんできて……
あなたの　なくなった
おかあさまから、あなたが
ひゃく二さいに　なられたら、
これを　おわたし　するように
いいつかって　おりました。
102

おやおや、ここは　いつもの
ゾロリじょうじゃ　ないようですよ。

あおじろい　月の　ひかりに
てらされて、ぐっすり　ねむっていた
むしたちは、とつぜん　ききなれない
うた声で　とびおきました。

ほうれんそうマンの ゆうれいじょう

みづしま志穂 さく★原 ゆたか え

ほうれんそうマンの
ゆうれいじょう
みづしま志穂 さく★原 ゆたか え
ドキ